TOSHIBA

ロッカー形非常放送アンプ設置要領書

目　次

設置上のご注意

アンプの設置について……1
スピーカの設置について……2
配線について……2～3

設置のしかた

設置場所・アンカーボルトの埋め込み……4
入線孔について……4
シャーシレールの取り付けかた……4
接地工事について……4

接続のしかた

出荷時の状態……5
電力増幅器、非常電源パネルの接続、業務操作パネルの接続……6
制御電源パネル内のACコンセントへの接続のしかた……7
業務操作パネルへの接続……8
ユニット(別売)の取り付けかた……9
アンテナの接続のしかた……9
外部アンテナの設置、配線についてのご注意……10
ICチャイムユニットの接続のしかた……11
マイク2,3、業務リモコン、ライン1入力を平衡入力にするとき……11
時報チャイムの音声信号の優先切りかえについて……11
非常操作パネル(非常・業務兼用)への接続……12
予備入力を平衡入力にするとき……12
回線数が10回線以上のときの増設パネルの接続のしかた……13～15
増設電源の接続……16
非常用蓄電池の選定についてのご注意……16
形名について……16

外線との接続

スピーカの接続……18
自動火災報知設備との接続……19
業務用リモコンとの接続……20
非常・業務兼用リモコンとの接続……21～22
カットリレー、スピーカ回線切換用リレーボックスの接続……22
時報チャイムの接続……23
BGM演奏装置の接続……24
音声ファイルユニットの接続……24

初期設定

非常・業務兼用リモコンの初期設定……25～26

取付・接続が完了したら……27～28

スピーカ回線保護ヒューズ溶断時の処置のしかた……29

調整のしかた

業務放送の音量調整……30
オートフェーダーレベルの調整……30
非常警報音、非常・業務兼用マイク、非常・業務兼用リモコンの音量の調整……31

TOSHIBA

ロッカー形非常放送アンプ設置要領書

ALF-1500Rシリーズ、1501Rシリーズ　ALF-1510R……ミニロッカー，非常業務兼用形10回線

ALF-2000Rシリーズ、2001Rシリーズ　ALF-2010R…ロングロッカー，非常業務兼用形10回線

このたびは東芝ロッカー形非常放送アンプをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めのロッカー形非常放送アンプを正しく設置して使っていただくために、この設置要領書をよくお読みください。

設置上のご注意

アンプの設置について

本機は消防法に適合した機種です。本機の設置場所は消防法で次のように規定されています。

①

増幅器及び操作部は守衛室等常時人がいる場所（中央管理室が設けられている場合には当該中央管理室）に設けること。
－消防法施行規則第25条の２の３のルー

②

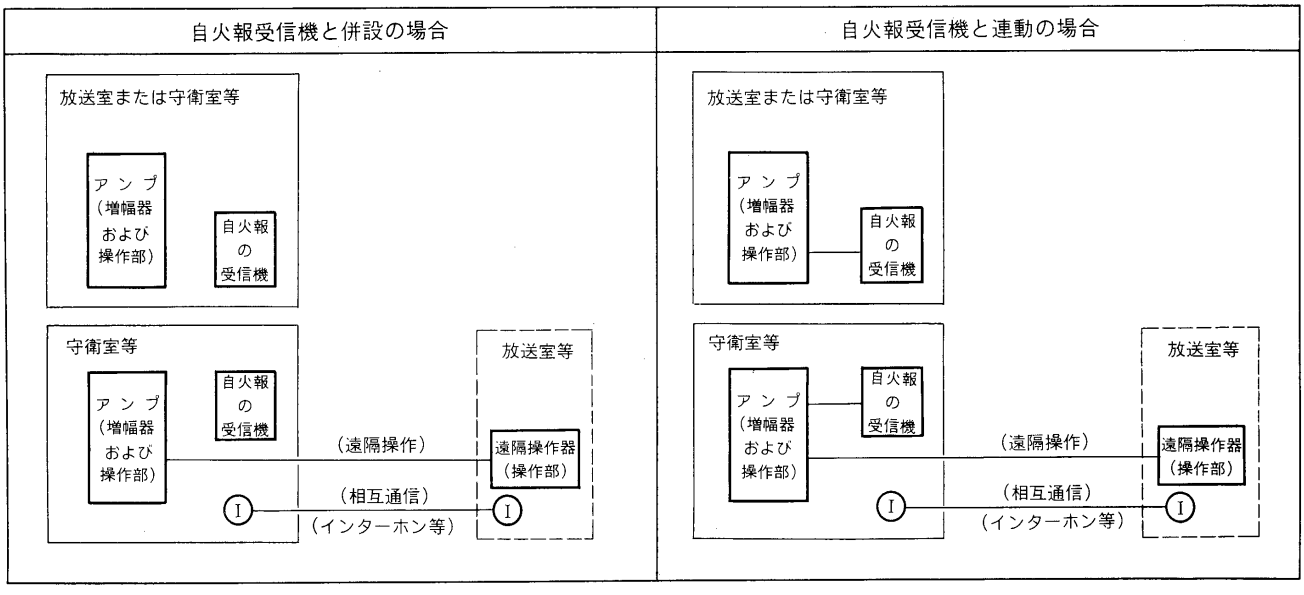
増幅器、操作部及び遠隔操作器は点検に便利でかつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。
－消防法施行規則第25条の２の３のトー

●ここで防火上有効な措置を講じた位置とは、当該設備を設置する防火対象物のうち、壁、床および天井が不燃材料で造られており、その開口部は甲種防火戸を設けた室をいいます。

③

一の防火対象物に二以上の操作部が設けられているときは、これらの操作部のある場所相互で同時に通話することができる設備を設けており、かつ、いずれの操作部からも当該防火対象物の全区域に火災を報知することができるものであること。
－消防法施行規則第25条２の３のヲ

●本機（増幅器、操作部）の設置方法には下記の４種類が考えられます。なお、下記の実線で表わした部屋は常時人がいて、①②③項を満足していなければなりません。



工事店様へ

工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

スピーカの設置について

スピーカの設置については消防法では次のように規定されています。

①

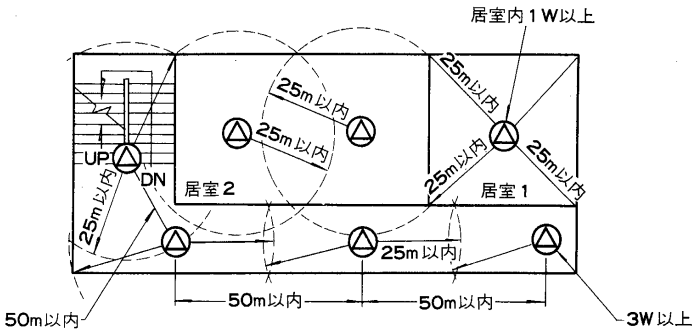
スピーカの音声入力は3ワット（居室内に設けるものにあっては1ワット）以上であること。
－消防法施行規則第25条の２の３のイ－

②

スピーカは各階ごとに、その階の各部分から１のスピーカまでの水平距離が25メートル以下となるように設けること。
－消防法施行規則第25条の２の３のロ－

- ２つのスピーカの間隔は50ｍ以内となりますが業務放送用と兼用する場合は、業務放送用として支障のないように考慮することが必要です。
- 同一室内に２つ以上のスピーカを設置する場合はスピーカの極性をあわせることが必要です。

スピーカの設置例



③

出力は400ヘルツから1,000ヘルツまでの警報音を放送したときスピーカの中心から１メートル離れた位置で騒音計により計った値で90ホーン以上の音量を有するものであること。
－告示第６号第４の４の（１）－

④

スピーカは80度の温度の気流中に30分間投入した場合、機能に異常を生じないものであること。
－告示第６号第４の４の（２）－

配線について

本機（増幅器、操作部）の配線工事は、電気工作物にかかわる法令の規定によるほか、消防法の規定によります。

① 本機～スピーカ、本機～遠隔操作器までの配線

イ、600ボルト耐熱ビニル絶縁電線または これと同等以上の耐熱性を有する電線を使用すること。

ロ、金属管工事、可とう管線管工事、金属ダクト工事、またはケーブル工事（不燃性のダクトに布設するものに限る）により設けること。ただし消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合はこの限りでない。
－消防法施工規則第25条の２の４のニ－
－消防法施行規則第12条の１の５－

- 消防庁長官が定める基準に適合する電線とは耐熱電線のことであり消防庁告示第10号に規定する基準に合格した電線です。この耐熱電線を使用すれば金属管工事等は不用です。

ハ、火災により一の階のスピーカまたは配線が短絡または断線しても他の階への火災の報知に支障がないように設けること。
－消防法施行規則第25条の２の４のハ－

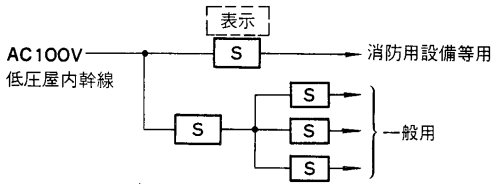
- ある回線の短絡、断線が他の回線に影響しないようにするためには階別単独配線としなければなりません。スピーカラインが２線式の時は２線とも、３線式のときは３線とも階別に配線しなければなりません。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

②本機の電源

イ、電源は蓄電池又は交流低圧屋内幹線から他の配線を分岐せずにとること。
ロ、電源の開閉器には、消防用設備等専用のものであることを表示すること。
－消防法施行規則第24条の３－

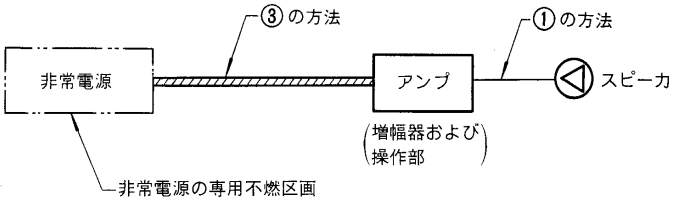
●本機の電源（AC100V）は蓄電池設備の充電電源となりますので下図のように専用回路とし開閉器には消防用設備専用である旨の表示が必要です。



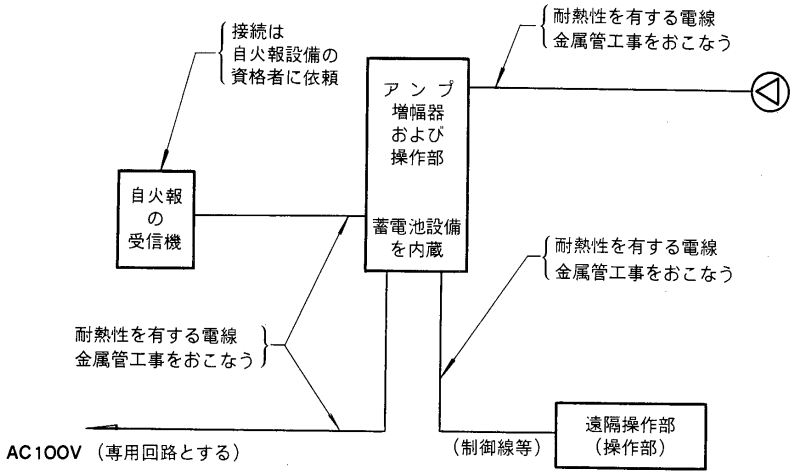
③非常電源の配線

イ、600V耐熱ビニル絶縁電線またはこれと同等以上の耐熱性を有する電線を使用すること。
ロ。電線は耐火構造とした主要構造部に埋設することによりまたはこれと同等以上の耐熱効果のある方法により保護すること。ただしMIケーブルまたは消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合にはこの限りでない。
ハ、開閉器は不燃性の材料で造られた耐熱効果のある方法で保護すること。
－消防法施行規則第25条の２の５－
－消防法施行規則第12条の４の二－

●消防庁長官が定める基準に適合する電線とは耐火電線のことであり消防庁告示第７号に規定する基準に合格した電線を使用する場合には埋設工事等しなくてもよいことになります。
●本機に別の非常電源から供給する下図のような場合、この基準に適合しなければなりません。



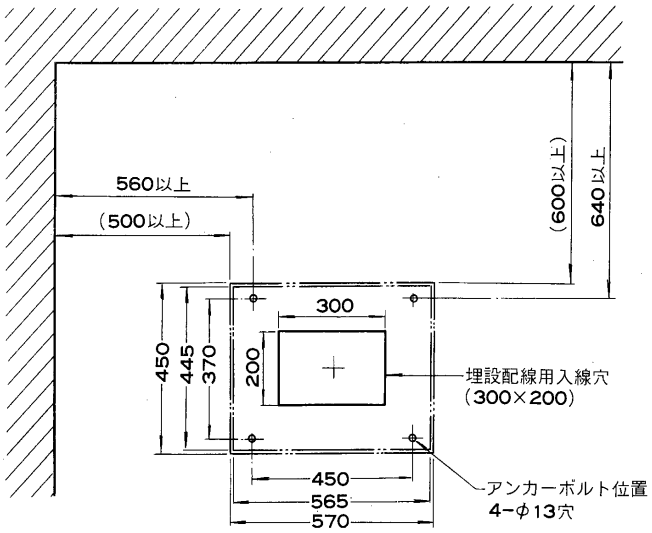
以上をまとめると本機（増幅器、操作部）の配線は次のようになります。

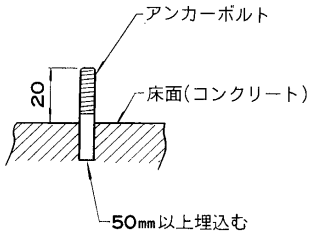


設置のしかた

設置場所、アンカーボルトの埋め込み

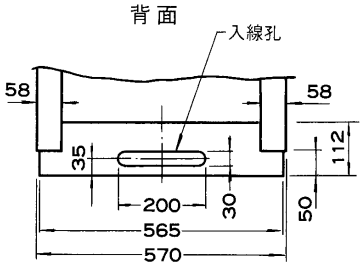
- 本機は重量が組み合わせにより100kgを超えますので床がしっかりとした場所（たとえばコンクリート床など）に据えつけてください。
- 通風のよい場所、空調のきく場所に設置してください。湿度の高い所や温度の高い所での使用はさけてください。
- 本機はアンカーボルトの取付ができるよう設計されています。本機を固定する場合は下図の位置にアンカーボルトを埋め込んでください。





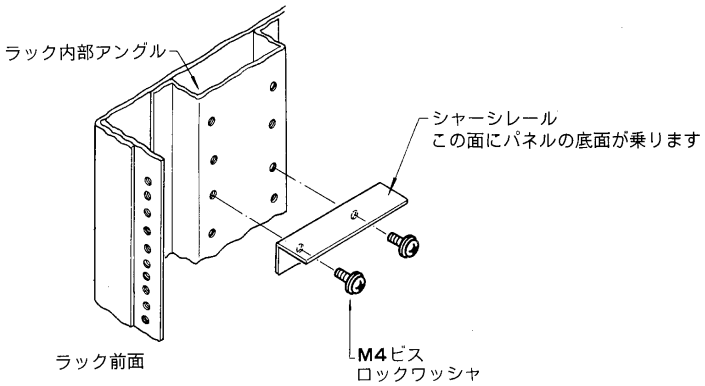
入線孔について

- 底面（上図参照）と背面下部（右図参照）に入線孔があります。外線はこの入線孔を通して内部の端子盤に引き込んでください。



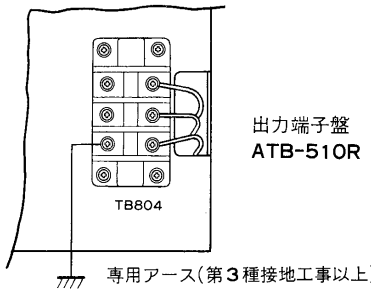
シャーシレールの取り付けかた

- 本機は保守点検がしやすいようにパネルを支持するシャーシレールが取りつけられる構造になっています。
- パネルを組み込む前にパネルに付属のシャーシレール（２個１組）を右図のように取り付けてください。
（軽量のパネルにはシャーシレールは付属していません。）



接地工事について

- 本機には外来ノイズから機器を守るためにノイズ吸収素子が各ラインと筐体間に入っています。
これらのノイズ吸収素子の働きを生かすために必ず接地端子を接地してください。
- 接地は第３種接地工事（接地工事抵抗100Ω以下）以上とし専用としてください。照明用や動力用の接地と共用しますとこれらの機器からの影響をうけ誤動作の原因となりますので必ず専用接地としてください。

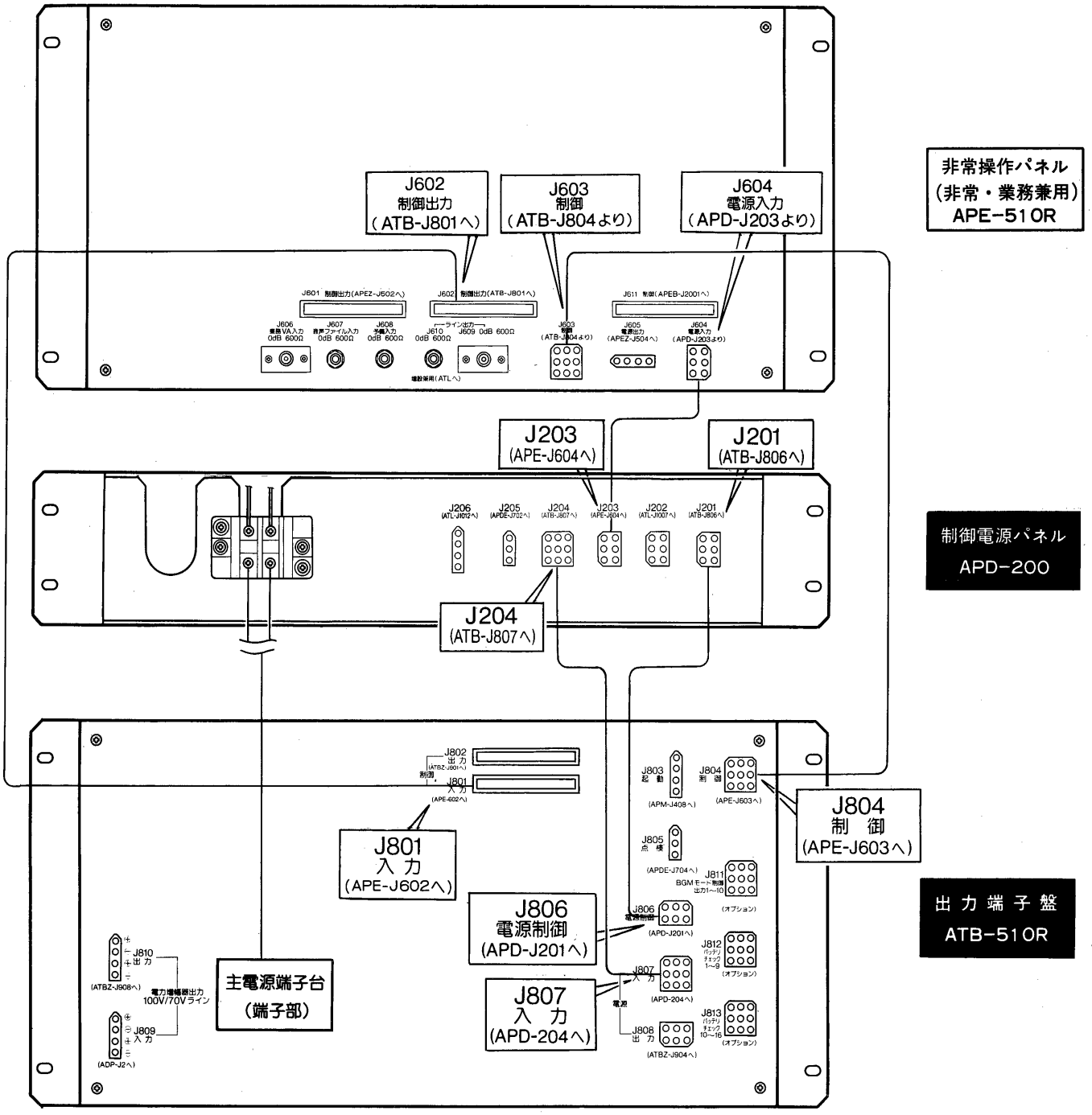


お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

接続のしかた

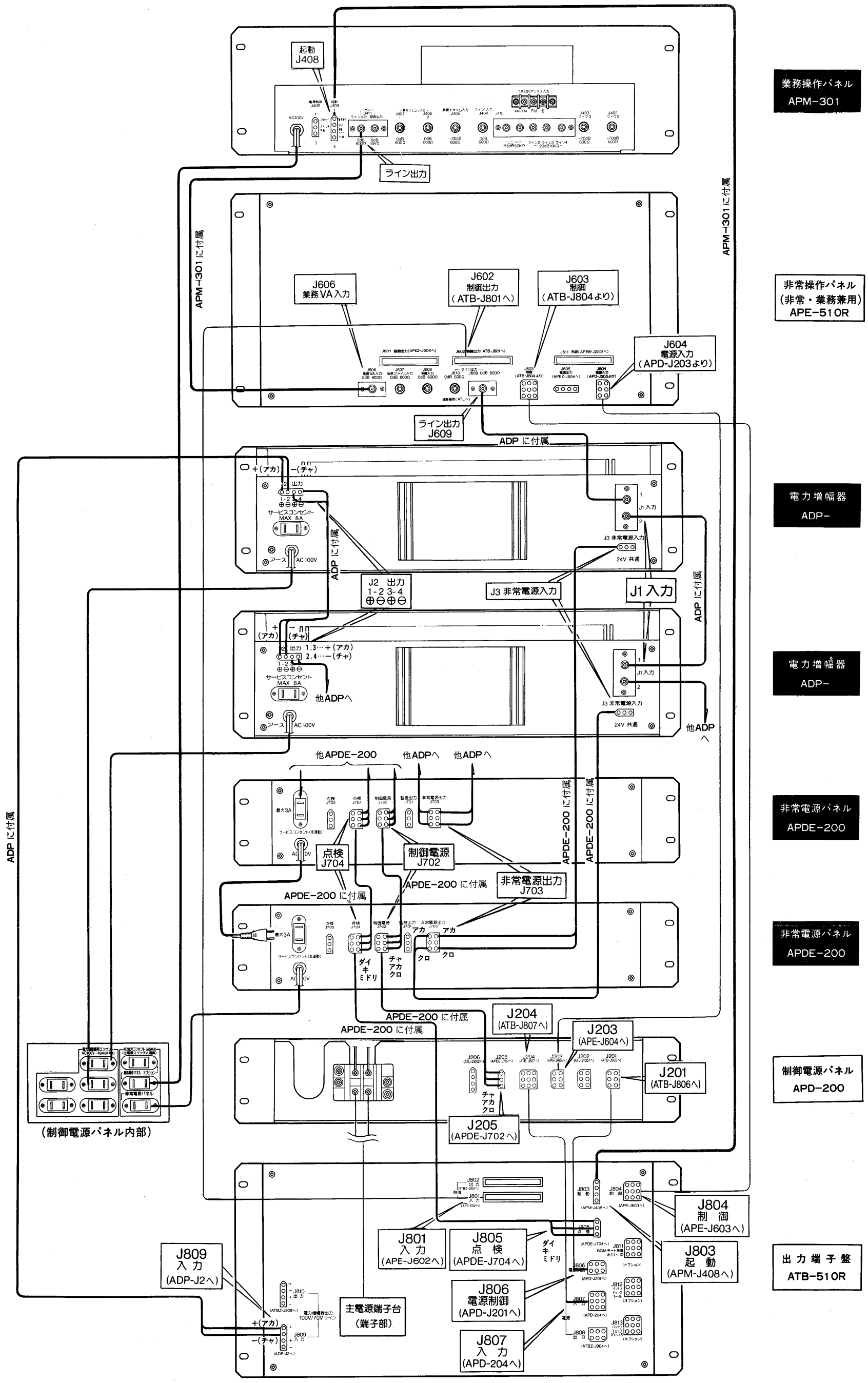
- 本機は10回線の非常・業務兼用形が基準となっており、これに必要なパネルを組み込んで、パネル間も接続された状態で出荷されます。
- 現地では電力増幅器、非常電源および回線数が10回線以上の場合は増設パネルの組み込みと、これらのパネル間の接続が必要です。また業務用として使用される各種パネル、機器の組み込みとこれらのパネル、機器の接続が必要です。

出荷時の状態



電力増幅器、非常電源パネルの接続　業務操作パネルの接続

- 電力増幅器および非常電源パネルをラック本体に組み込んだ後、図のように付属のコードを使用して各パネルと接続してください。
- 業務操作パネルをご使用のときはラック本体と組み込んだ後、図のように付属のコードを使用して各パネルと接続してください。



＊各パネル間の接続のうち細い線で示す個所は出荷時に接続されています。

＊業務操作パネル、電力増幅器および非常電源パネルの接続として必要な個所を太い線で示してあります。

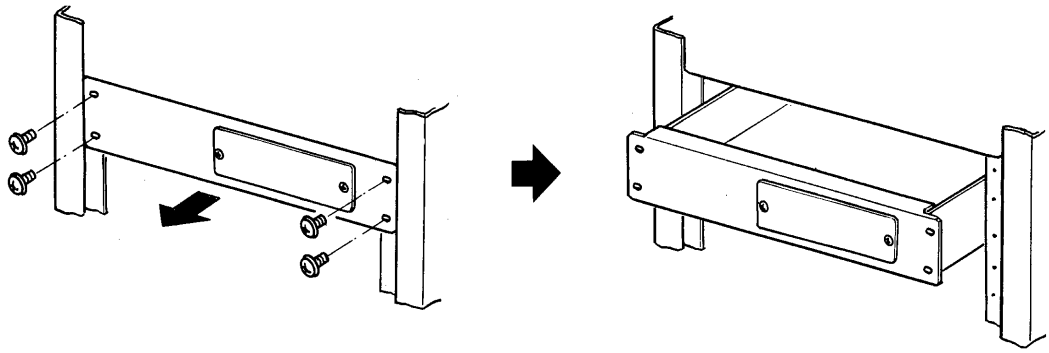
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

TOSHIBA

制御電源パネル内のACコンセントへの接続のしかた

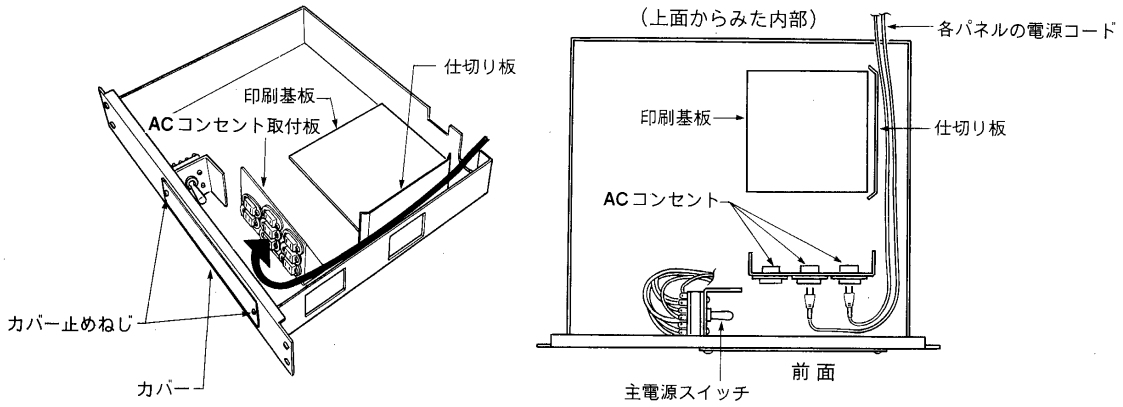
- 電力増幅器(ADPシリーズ)、非常電源パネル(APDE-200)、業務操作パネル(APM-301)および時報チャイム等のオプション機器の電源用AC100Vコンセントは制御電源パネルの内部にあります。
- 下図のようにして制御電源パネル内に各機器のACコードを引き込み、内部のACコンセントに接続してください。

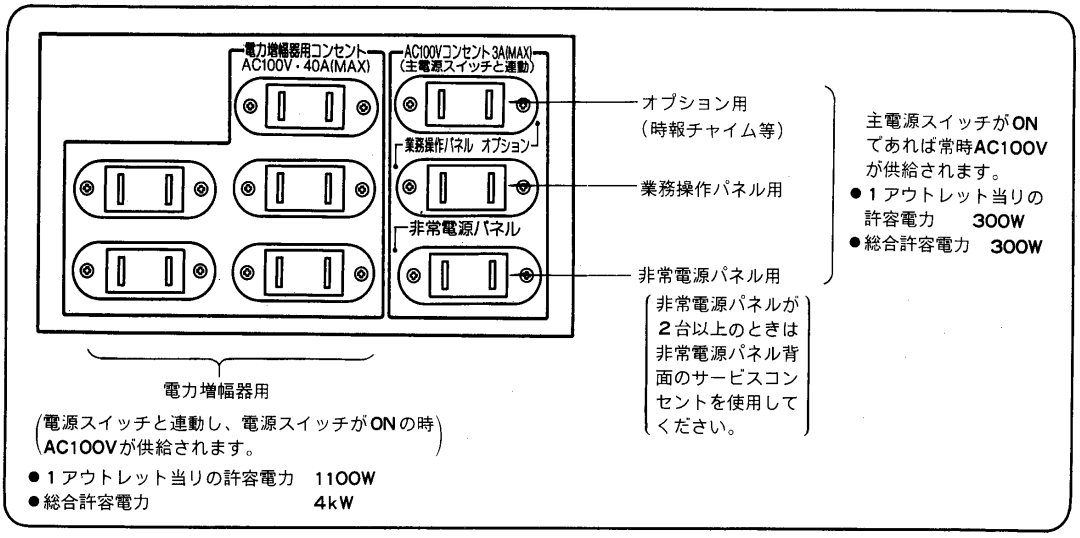
1 本体止めねじをはずし、制御電源パネル本体を手前に引き出してください。



2 パネル前面からみて、手前右側にACコンセントが取りつけてあります。背面右側の切り欠きから仕切りに沿って各パネルのACコードを引き込み、内部のACコンセントに差し込んでください。

- ACコンセントは下図のように接続機器がきめられています。間違いないよう特に接続機器の合計電力がACコンセントの許容電力を超えないように注意してください。



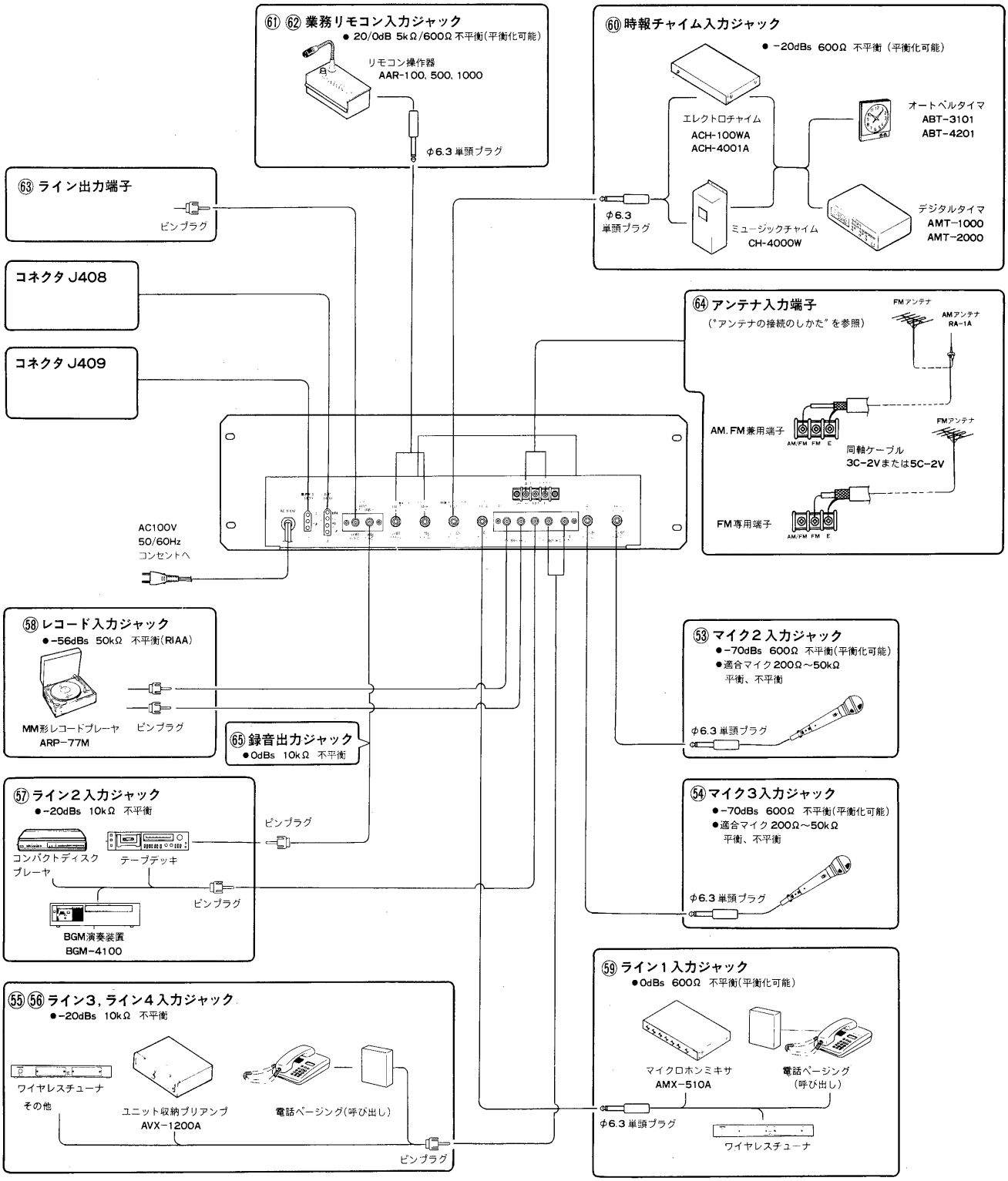


3 接続し終りましたら制御電源パネルをラック本体内に押し込み、パネル止めねじでパネルをラック本体に固定してください。

4 パネルをラックに固定した後のACプラグの抜き差しや主電源スイッチの入切のときは、前面カバーをはずすと前面からできます。

業務操作パネルへの接続

- 業務操作パネルにはマイクロホン、時報チャイム、レコードプレーヤ、テープデッキ、業務リモコンなど、業務放送用として使用する機器を接続します。
- 下図に従って接続してください。



お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

ユニット(別売)の取り付けかた

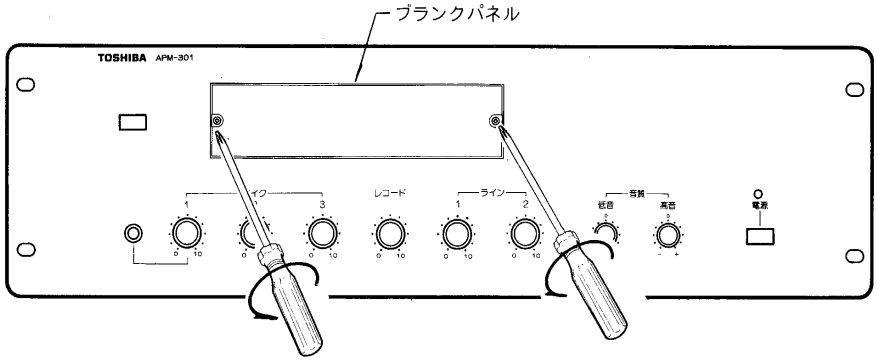
●業務操作パネル(APM-301)には別売のユニットを組み込んで使用することができます。

組み込み可能なユニットは次の3機種です。

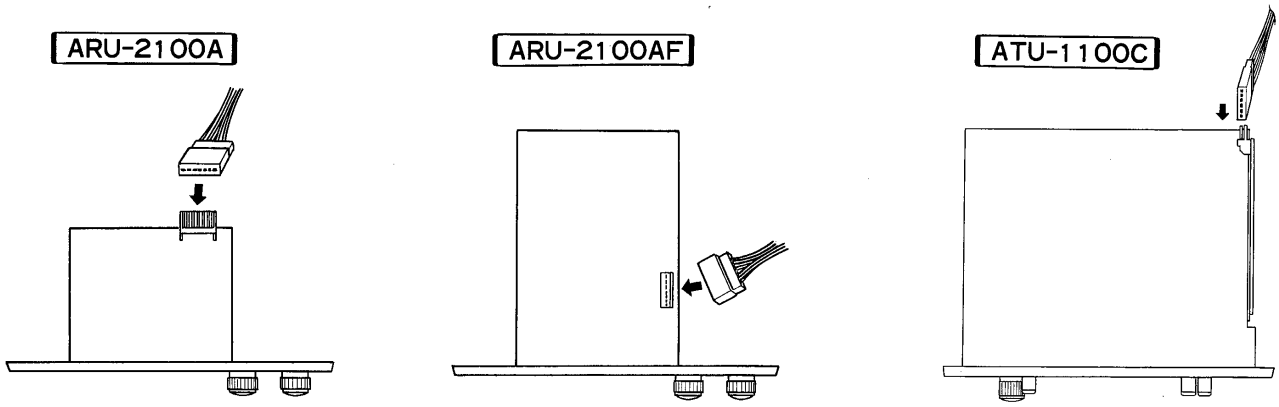
①AMラジオチューナユニット（形名：ARU-2100A）
②AM.FMラジオチューナユニット（形名：ARU-2100AF）
③オートリバースカセットテーププレーヤユニット（形名：ATU-1100C）

●取付けかた

1 ユニット収納部はブランクパネルでカバーされています。このブランクパネルを止めているねじ2本をドライバーではずしてください。



2 ブランクパネルの裏側に接続コードが止めてあります。接続コードをブランクパネルからはずし、先端のコネクタ(7P)をユニットのコネクタにしっかりとさしこみ接続してください。



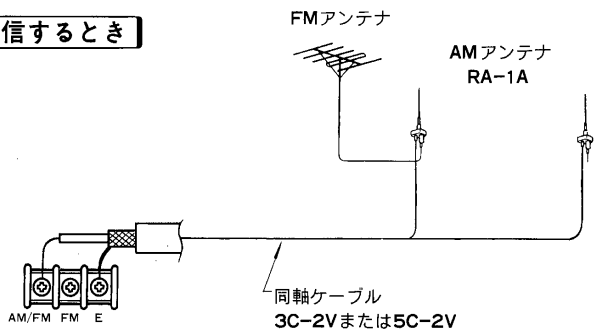
3 接続し終りましたらユニットを本体のユニット収納部にさしこみパネルをねじ2本で本体に固定してください。

ご注意 ●収納するとき接続コード、コネクタに無理な力が加わらないようにしてください。

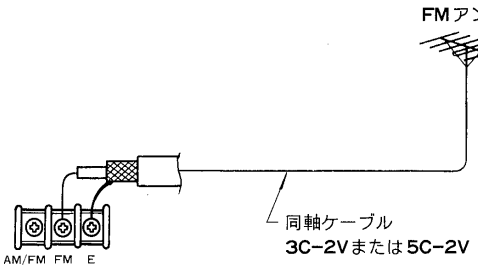
アンテナの接続のしかた

●ラジオチューナユニットを組み込んでご使用のときは受信用の外部アンテナが必要です。
業務操作パネル背面のアンテナ端子㊹にラジオ用アンテナを接続してください。

AMのみまたはAMとFMを受信するとき



FMのみ受信するとき

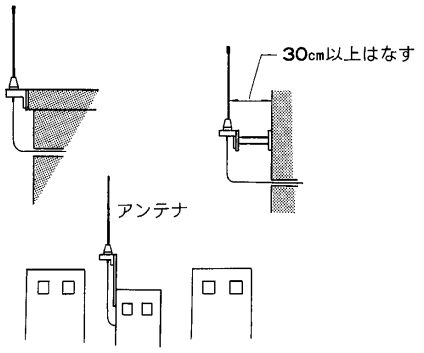


外部アンテナの設置、配線についてのご注意

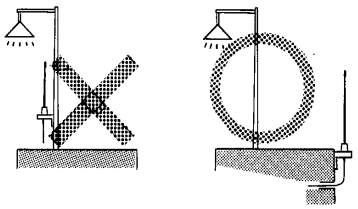
良好に受信し、外来ノイズの影響をうけないために下記の事項に注意してください。

①見通しのよいところに設置してください。

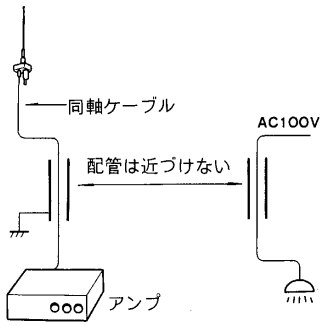
- 壁面に取り付けるときは図のようにエレメントを屋上から出すか、やむを得ず壁面に沿って取りつけるときは壁面より30cm以上離して取りつけてください。（下に向けたり水平にしないでください。）
- まわりに高い建物がある場合は図のように見通しのよい高いところに設置してください。



②水銀灯や街路灯などからはなるべくはなして設置してください。点灯時雑音の入る原因となります。

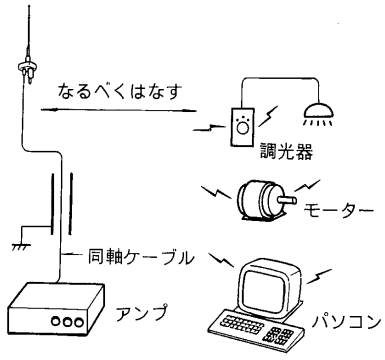


③アンテナ線は同軸ケーブルを使用し、AC100Vラインとは別配管にしてください。また配管は必ずアースしてください。



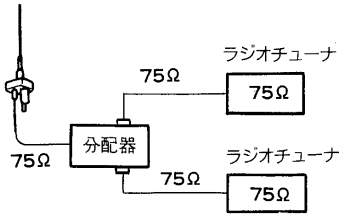
④配管からアンプ(ラジオ)までのアンテナケーブルの配線方法について

- アンテナケーブルは調光器ライン、パソコン、モーターなどのノイズ源の近くを通過しないように配線してください。



⑤アンテナ線を分配するときは必ず、分配器を使用してください。

- 分配器はAM.FMの周波数帯域(525～1605KHz, 76～90MHz)で損失の少ないものをご使用ください。



お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

ICチャイムユニットの接続のしかた

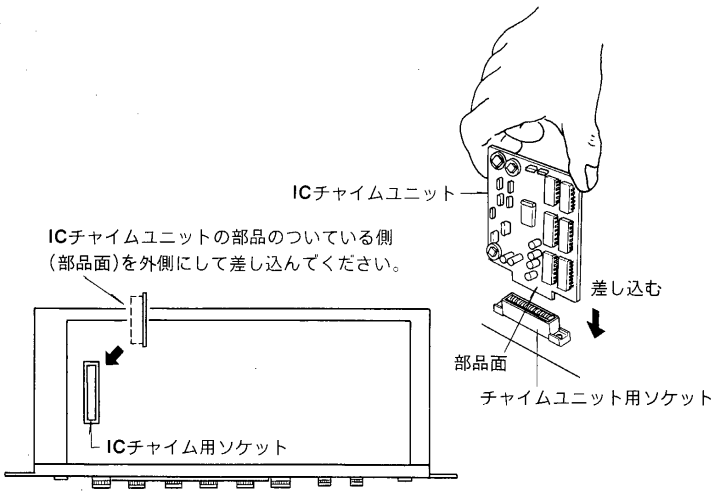
●別売のICチャイムユニットを組み込み、放送前の予告用として使用できます。

●業務操作パネル(APM-301)を手前に引き出し、内部のチャイム用ソケットに別売のICチャイムユニットをしっかり差し込んでください。

適合ICチャイムユニット……
CH-2(2音式)、ACU-4020A(4音式)

●ICチャイムユニットに付属のシール [ICチャイム] をスイッチの下に貼りつけてご使用ください。

ご注意 ユニットをソケットに差し込むとき方向にご注意ください。

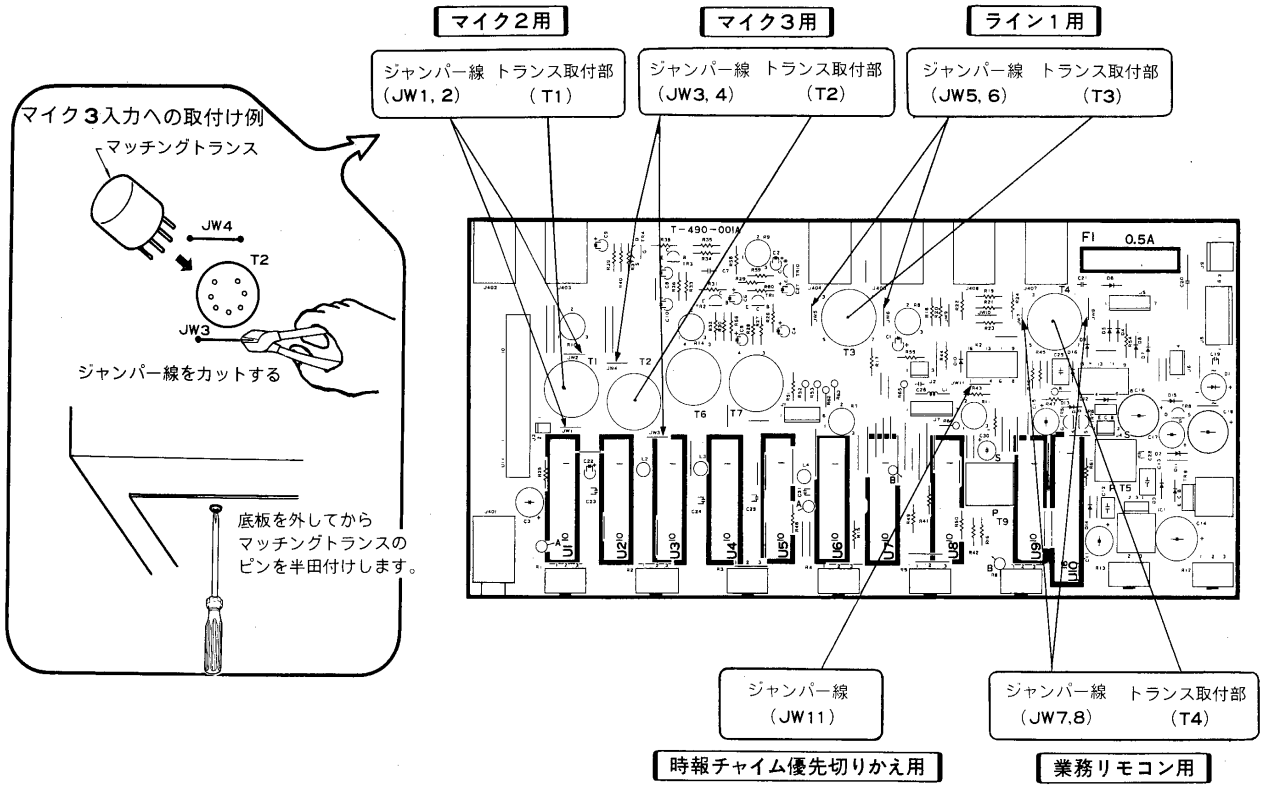


マイク2.3、業務リモコン、ライン1入力を平衡入力にするとき

●マイク2.3.業務リモコン、ライン1入力は不平衡形になっていますが別売のマッチングトランス(形名：FB1342)により平衡回路にすることができます。入力を延長して使用する場合は平衡形出力の機器を使用し、平衡入力としてご使用ください。

●マッチングトランス(形名：FB1342)は下記の手順で取付けてください。

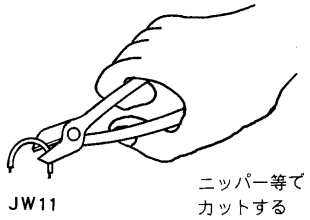
[1]別売のマッチングトランス(形名：FB1342)を図のように基板に差し込み、半田付した後部品面側のジャンパー線をニッパー等で切断してください。



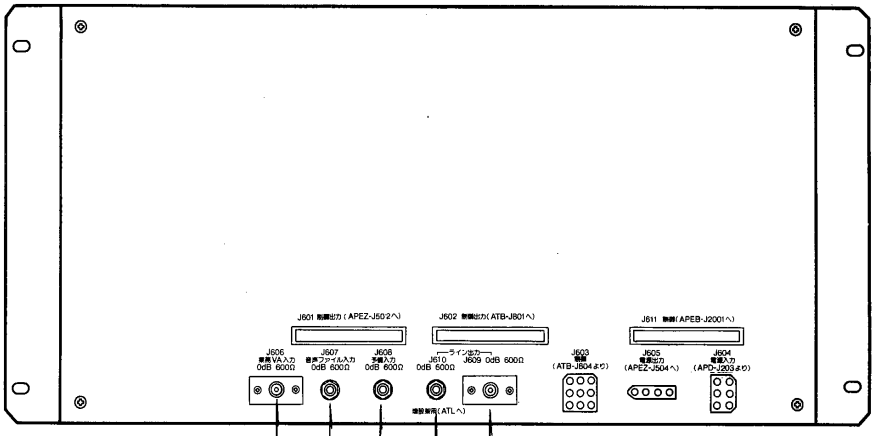
時報チャイムの音声信号の優先切りかえについて

●時報チャイムの音声信号は業務操作パネル(APM-301)内の他の音声信号とミキシングになるよう出荷時設定してあります。

●時報チャイムの音声信号を優先にしたいときは右図のようにジャンパー線(JW11)をニッパー等でカットしてください。
時報チャイム放送のときは業務リモコンを除く他の信号はカットされ時報チャイムが優先となります。(業務リモコン放送は時報チャイム放送とミキシングとなります。)



非常操作パネル(非常・業務兼用)への接続



㉟業務VA入力ジャック
業務操作パネル(APM-301)のライン出力端子㊸を接続してください。

㊱音声ファイル入力ジャック
24ページをご参照ください。

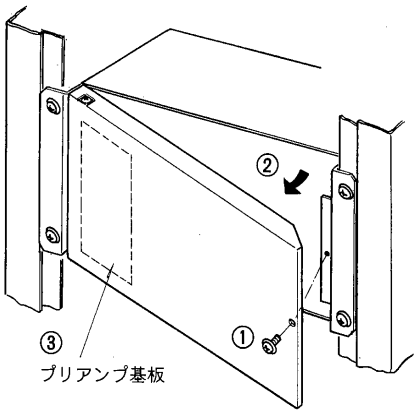
㊲予備入力ジャック
24ページをご参照ください。

㊳ライン出力ジャック
電力増幅器の入力ジャックへ接続してください。

㊴増設架出力ジャック
増設架を使用の場合、増設端子盤の電力増幅器用信号入力ジャックへ接続してください。

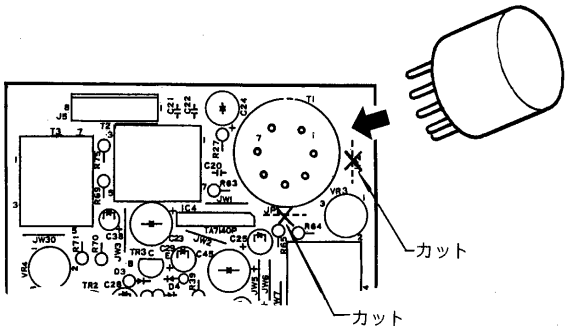
予備入力を平衡入力にするとき

- 予備入力回路は不平衡形になっていますが別売のマッチングトランス(形名：FB-1342)により平衡回路にすることができます。入力を延長して使用する場合は平衡入力にしてご使用ください。なお、接続機器も平衡出力のものをご使用ください。
- マッチングトランス(形名：FB1342)は下記の手順で取りつけてください。



1 ①パネル止めねじをゆるめ②パネルを左開きであけてください。③パネル背面にプリアンプ基板(M-488-005)が取りつけられています。

2 基板止めねじ(4本)をはずし別売のマッチングトランス(形名：FB1342)を半田付けした後ジャンパー線(JP1, JP2)を切断してください。



ご注意 ●取り付けるときは本体の電源を切って行ってください。またコネクタ、配線に無理な力が加わらないようにご注意ください。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

回線数が10回線以上のときの増設パネルの接続のしかた

●回線数が10回線以上の場合、増設パネルが必要となります。
回線数ごとに必要となる増設パネルは下表のとおりです。

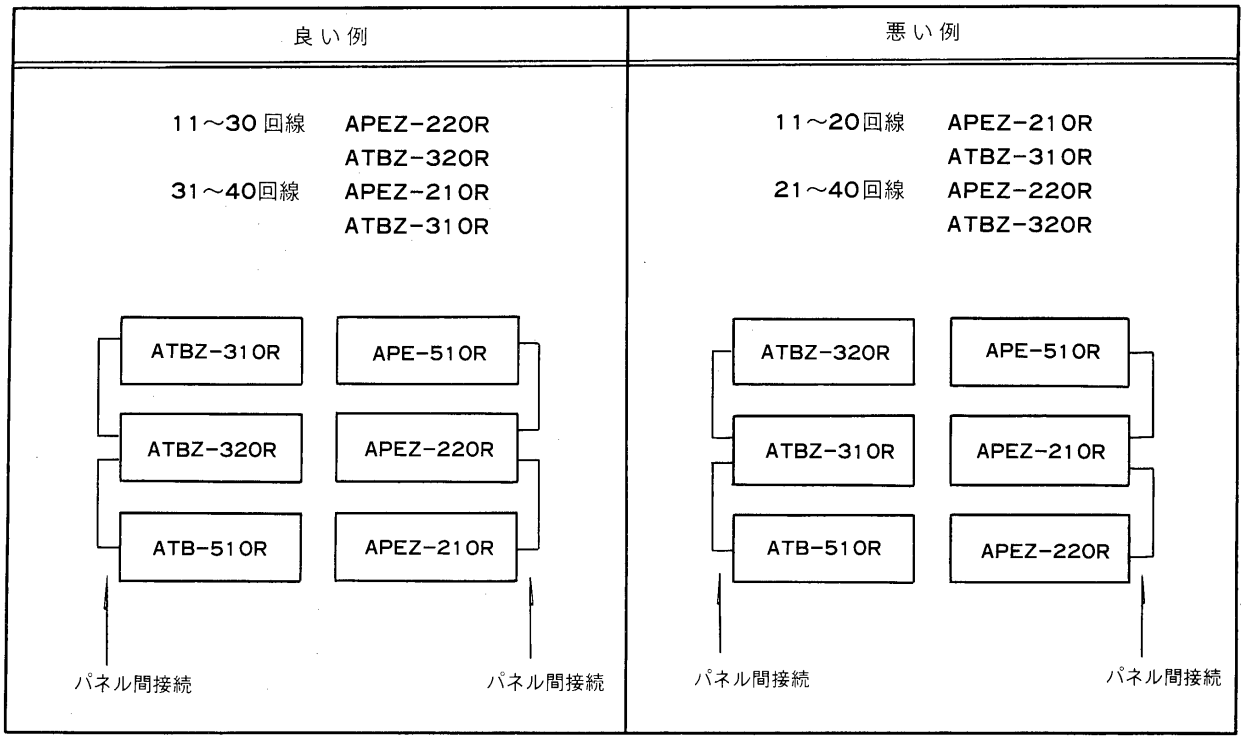
回線数	必要な増設パネル			
	商　品　名	形　名	台数	備　考
20	増設スイッチパネル	APEZ-210R	1	10回線用
	出力増設端子盤	ATBZ-310R	1	
30	増設スイッチパネル	APEZ-220R	1	20回線用
	出力増設端子盤	ATBZ-320R	1	
40	増設スイッチパネル	APEZ-210R	1	10回線用
		APEZ-220R	1	20回線用
	出力増設端子盤	ATBZ-310R	1	10回線用
		ATBZ-320R	1	20回線用

20回線、30回線、40回線それぞれのパネル間の接続のしかたを図１～図２に示します。
これに従って各パネルを組み込み接続してください。

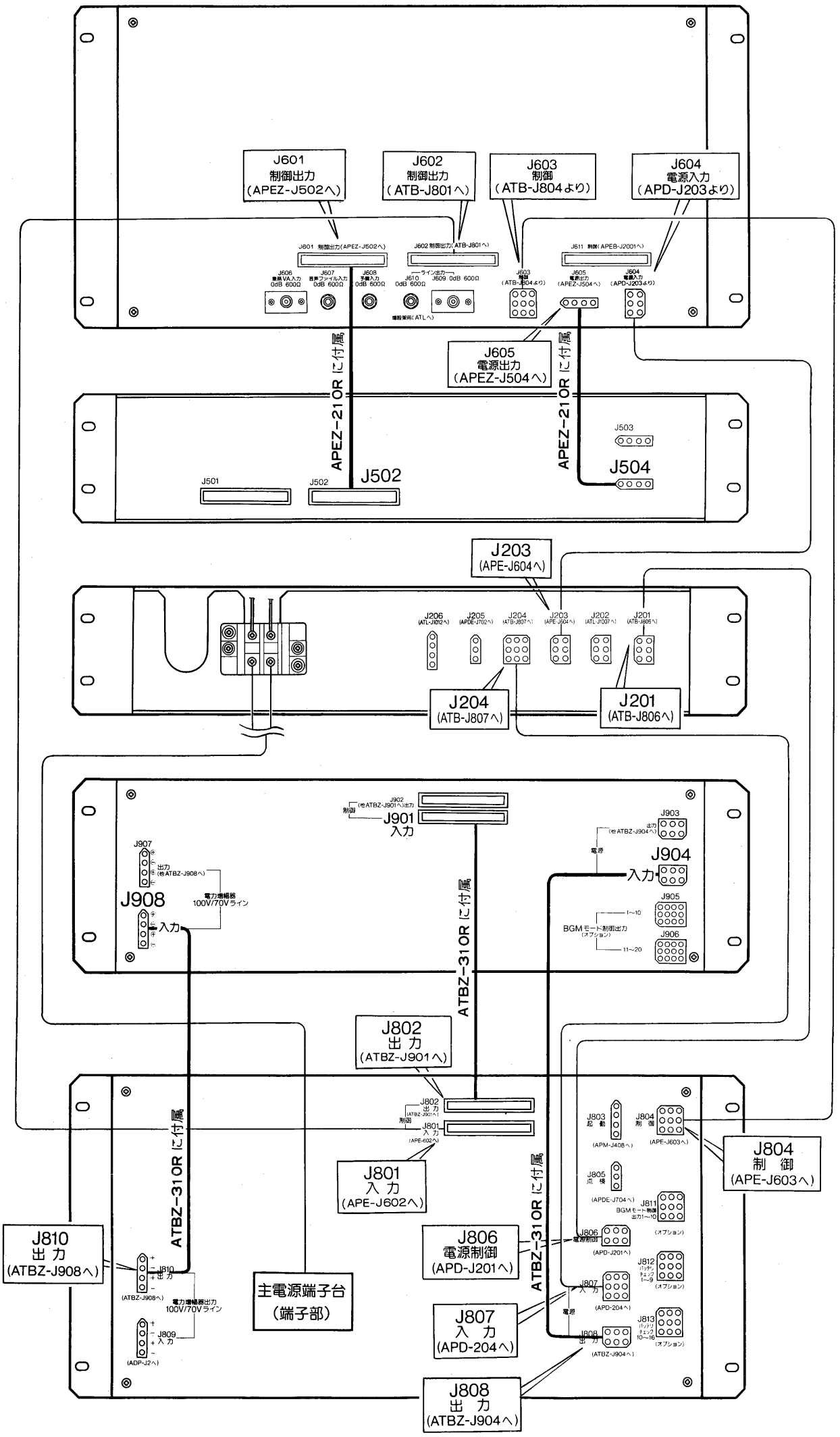
ご注意

●30 回線のとき、10 回線用の増設パネル(APEZ-210RおよびATBZ-310R)を２台使用することはできません。
20 回線用の増設パネル(APEZ-220RおよびATBZ-320R)を１台使用してください。

●30 回線以上で10 回線用の増設パネルと20回線用の増設パネルを混在使用するとき、10回線用の増設パネルは最後の回線に使用してください。途中の回線に使用すると誤動作しますのでご注意ください。



また増設スイッチパネル(APEZ-210R, 220R)と増設端子盤(ATBZ-310R, 320R)との回線数が合致していないときも誤動作しますので、回線数を合わせてご使用ください。



非常操作パネル
(非常・業務兼用)
APE-510R

増設スイッチパネル
APEZ-210R または
APEZ-220R
(11～20回線)または
(11～30回線)

制御電源パネル
APD-200

出力用増設端子盤
ATBZ-320R
(11～20回線)または
(11～30回線)

出力端子盤
ATB-510R
(1～10回線)

図1　20回線および30回線のときのパネル間接続

＊ 細い線(———)で示す各パネル間の接続は出荷時に接続されています。
＊ 太い線(———)で示す各パネル間の接続が増設パネル組み込みに伴い接続の必要な所です。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

TOSHIBA

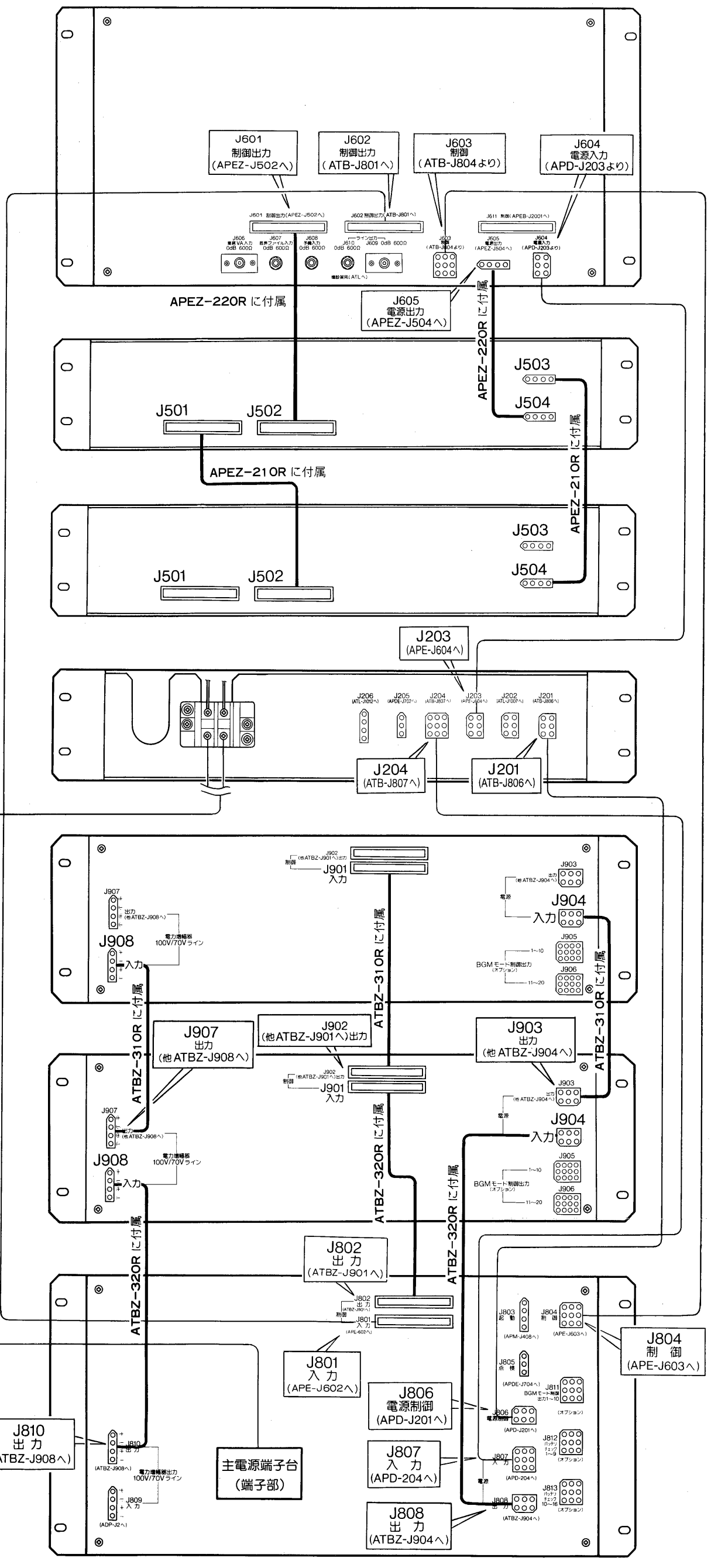


図2　40回線のときのパネル間接続

＊ 細い線(———)で示す各パネル間の接続は出荷時に接続されています。
＊ 太い線(———)で示す各パネル間の接続が増設パネル組み込みに伴い接続の必要な所です。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

増設電源の接続

●制御電源パネル内蔵の電源でカバーできる範囲は下表に示すとおりです。
この範囲を超える回線数あるいは非常・業務兼用リモコンの台数でご使用の場合は増設電源(APDZ-200)が必要です。

非常・業務兼用リモコン台数 ＼ 本体の出力回線数	10	20	30	40	50	60	70	80	90
0									
1台									
2台									
3台									
4台									

内蔵電源で十分

増設電源が必要

太線で囲った部分

＊増設電源の組み込みかたは増設電源(APDZ-200)に付属の取扱説明書をご参照ください。

本ロッカーアンプシリーズの非常リモコン接続の標準システムは30回線までとなっています。
40回線以上の非常リモコンが必要な場合はあらたに消検受験による型式取得が必要ですので
別途ご相談ください。

非常用蓄電池の選定についてのご注意

●内蔵コンピュータの停電時の動作および書き込んだ内容の記憶のために必要な蓄電池は電力増幅器用と共用使用します。
このため非常用蓄電池は下記に従って選定してください。

1	60W電力増幅器の蓄電池としてはNBT-3000を使用してください。

形名について

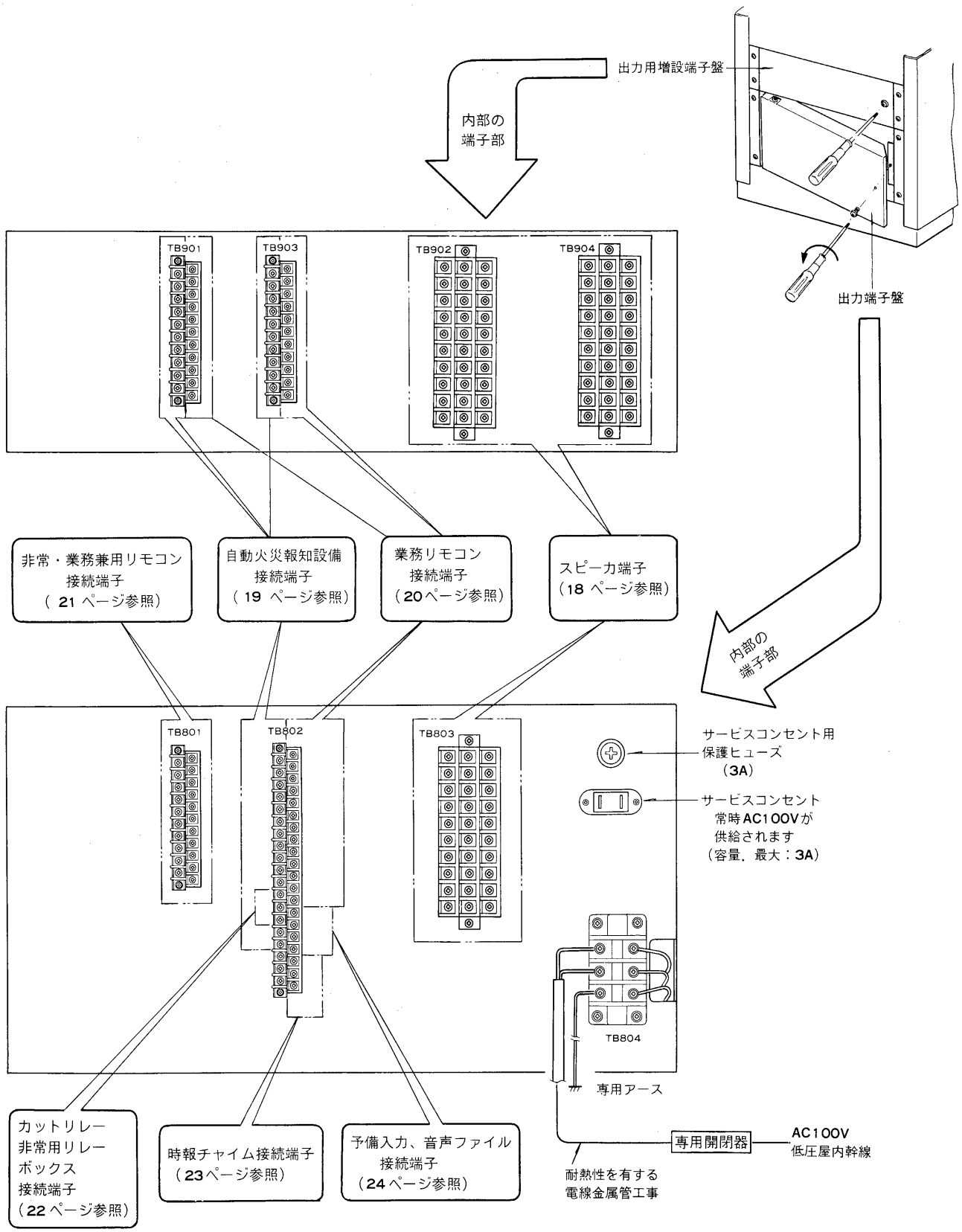
●本機は30回線までの型式と30回線以上の型式とは異なります。
30回線まではALF-1500Rシリーズ、2000Rシリーズ(非常・業務兼用リモコンは4台まで接続可能)、30回線以上はALF-1501Rシリーズ、2001Rシリーズ(非常・業務兼用リモコンは接続不可)が認定をうけている型式です。
●定格銘板には両型式が記入されていますのでシステムアップした状態が30回線以下の場合はALF-2001R, ALF-1501Rを30回線以上の場合はALF-2000R, ALF-1500Rを油性マジックか不滅インキで消してください。

どちらかを消してください。

東芝ロッカー形非常放送アンプ
ALF-2000R. 2001R
㊥TYD 定格電圧 100V
定格消費電力 最大4.8KW以下
定格周波数 50/60Hz
最大消費電力 KVA以下
東芝ライテック株式会社
MADE IN JAPAN

外線との接続

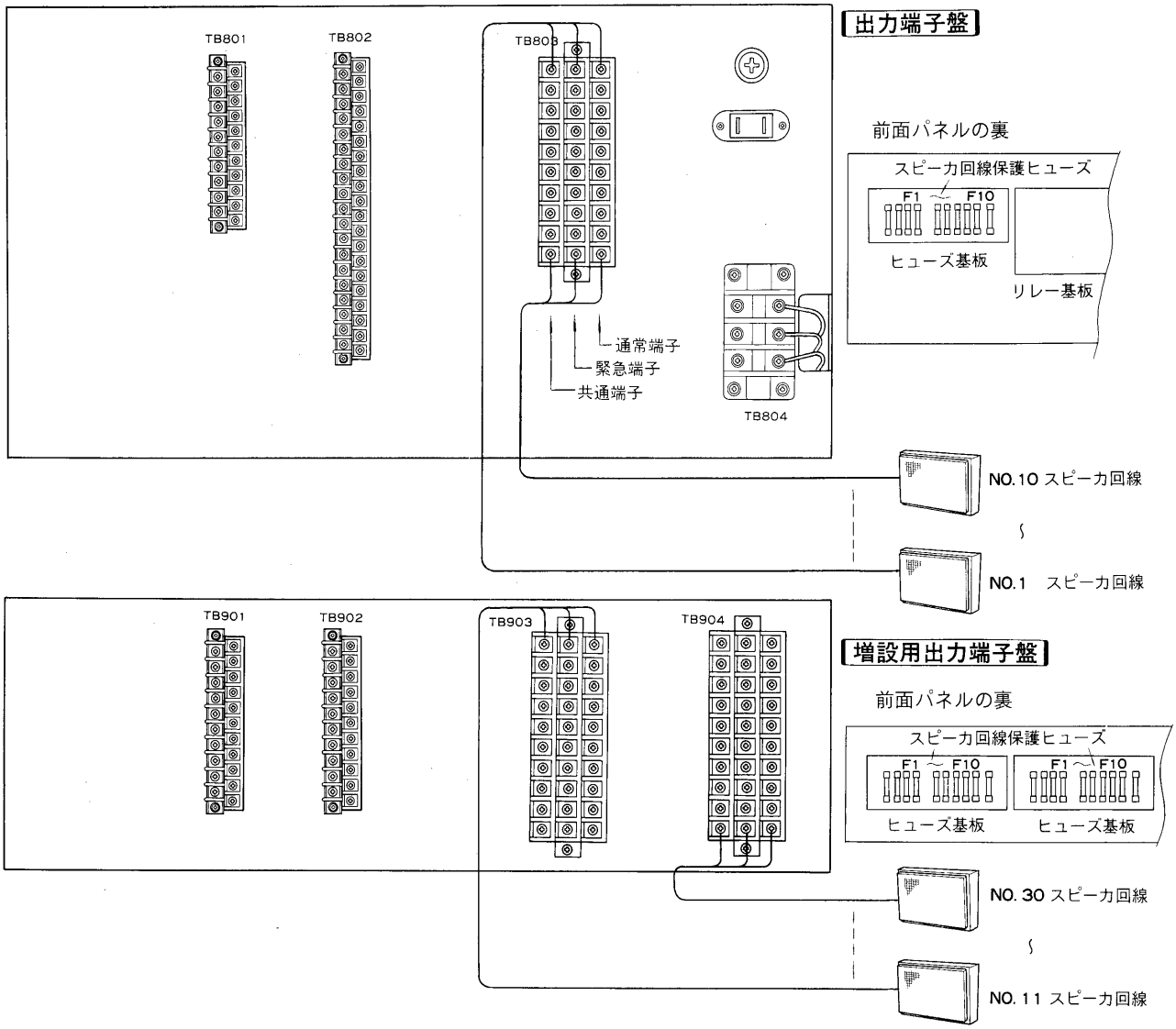
- 外線（スピーカ、電源、自動火災報知設備、非常・業務兼用リモコン、業務リモコン等）との接続は出力端子盤（ATB-510R）および出力用増設端子盤(ATBZ-310R, 320R）で前面からできます。
- 各端子盤のパネル止めねじを図のようにドライバーではずすとパネルが左開きで開けることができます。



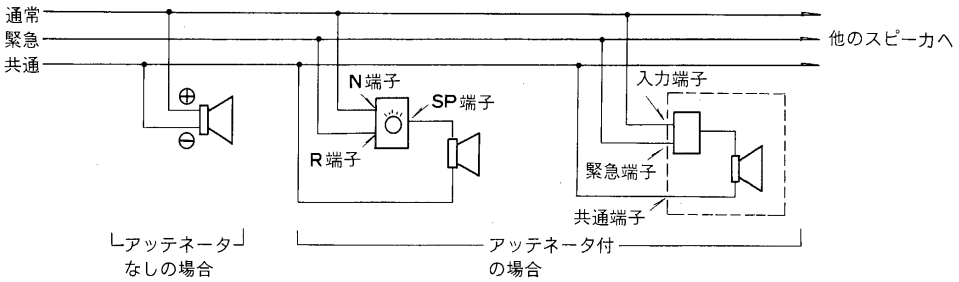
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

スピーカの接続

●スピーカは下図のように通常、緊急、共通の各端子に接続してください。



●スピーカ回線はアッテネータ付の場合は３本、アッテネータなしの場合は２本の配線が**回線毎に必要です。**
アッテネータ付、アッテネータなしそれぞれの場合のスピーカへの接続方法は下図のとおりです。



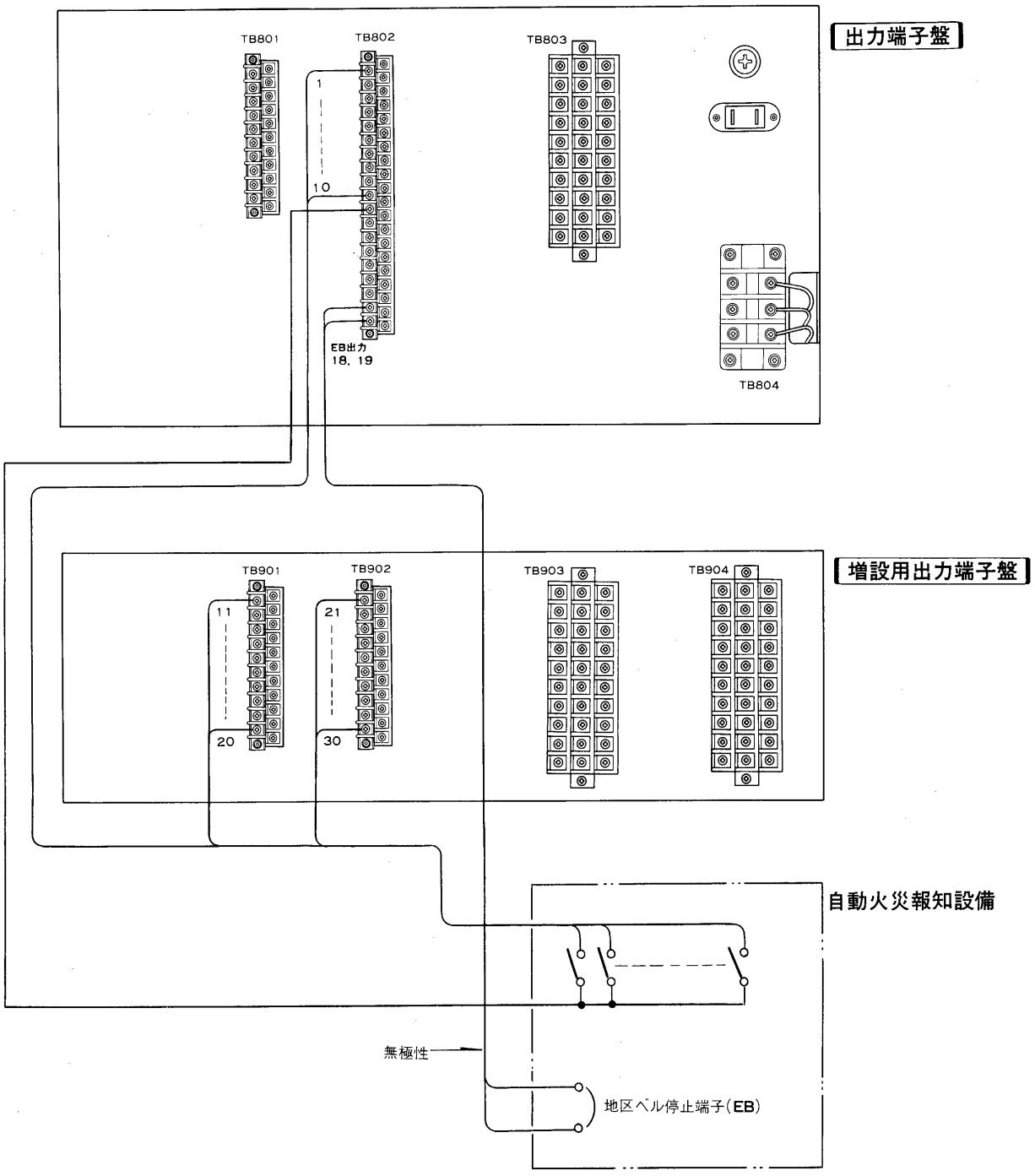
●**スピーカ回線の短絡保護用ヒューズとして出荷時0.5A**
が取り付けてあります。（このときの１回線あたりのスピーカ容量は最大50W）このヒューズの容量をかえることにより最大300Wまで可能です。１回線あたりのスピーカ容量が50Wをこえる場合は右表によりヒューズを交換してください。

１回線300Wをこえる場合は２回線以上にわけてください。

ヒューズ容量	１回線あたりの最大スピーカ容量
0.5A	50W
1 A	100W
1.5A	150W
2 A	200W
3 A	300W

自動火災報知設備との接続

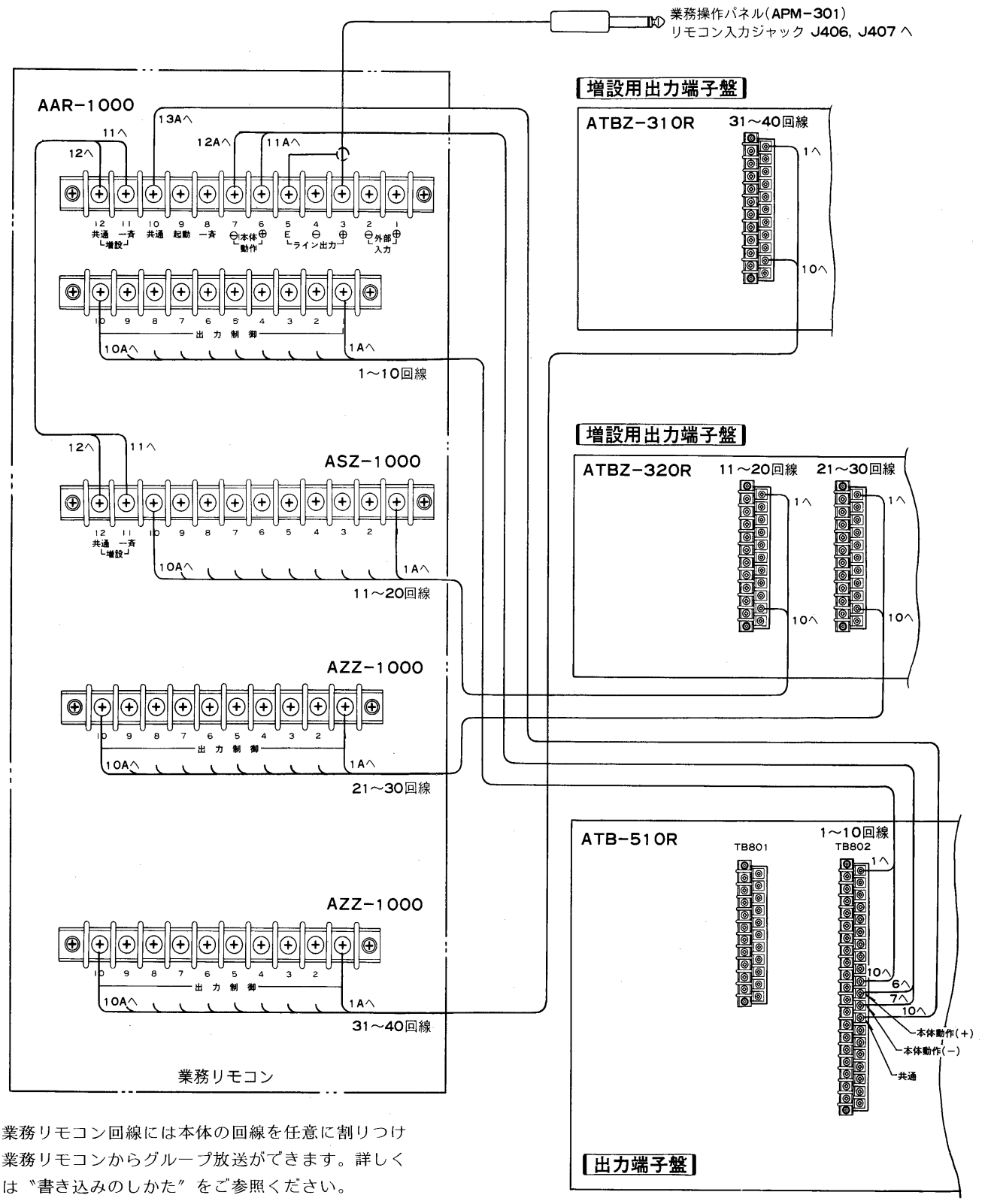
● 自動火災報置設備からのメイク接点、自動火災報知設備の地区ベル停止(非常放送時)のためのEB出力の接続のしかたは下図のとおりです。



お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

業務用リモコンの接続

- 業務用リモコンは最大40回線まで接続できます。下図に従って接続してください。
- 下図は業務リモコン１台接続時の接続図ですが、業務リモコンは最大２台接続できます。
  ２台接続時は本体の端子にそれぞれのリモコンへの配線を一緒に接続してください。

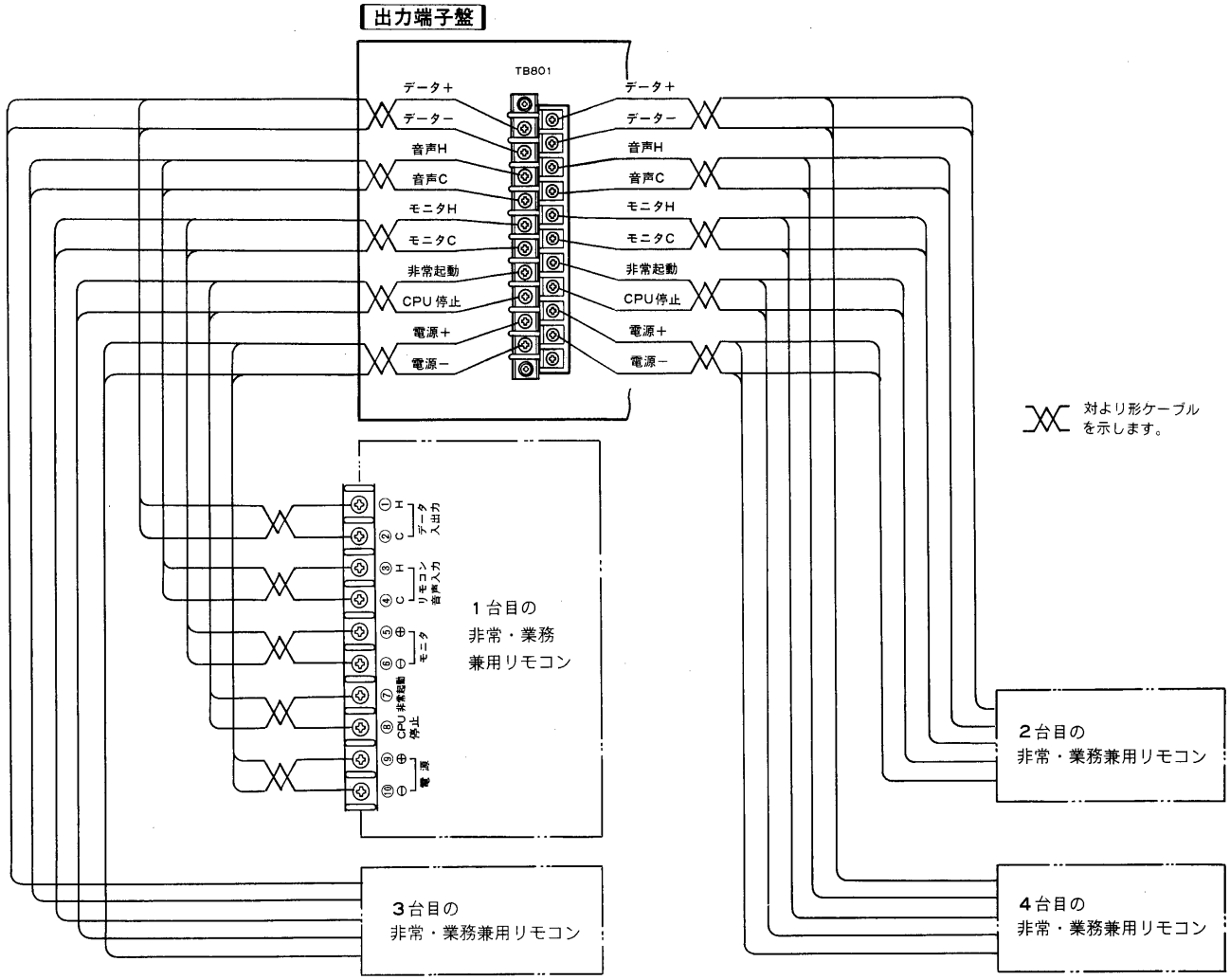


- 業務リモコン回線には本体の回線を任意に割りつけ業務リモコンからグループ放送ができます。詳しくは〝書き込みのしかた〟をご参照ください。

非常・業務兼用リモコンの接続

- 非常・業務兼用リモコンは**最大４台**まで接続できます。
- 接続可能な非常・業務兼用リモコンは**ARF−1001R**シリーズです。

ご注意 ARF-1000Rシリーズ(形名：ARC-1000R, 1500R, 2000R)は接続できませんのでご注意ください。



- 配線には**耐熱対より形ケーブル**をご使用ください。
- 許容線路抵抗は下表のとおりです。線路抵抗値が許容線路抵抗以内になるように線径を選んでください。

[許容線路抵抗値]

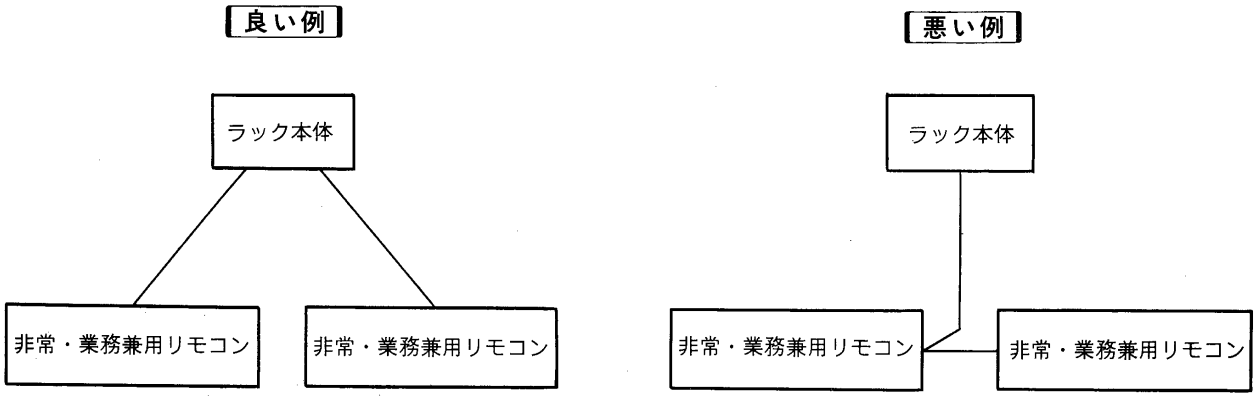
局 数	電源線(１対)	制御線(４対)
10	5 Ω	50 Ω
20	3 Ω	50 Ω
30	2.5 Ω	50 Ω
40	1.5 Ω	50 Ω
50以上	1 Ω	50 Ω

[耐熱対より形ケーブルの線路抵抗値(1線あたり)]

線 経	抵抗値
φ0.65mm	約58 Ω/km
φ0.9mm	約30 Ω/km
φ1.2mm	約17 Ω/km
φ1.6mm	約10 Ω/km

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

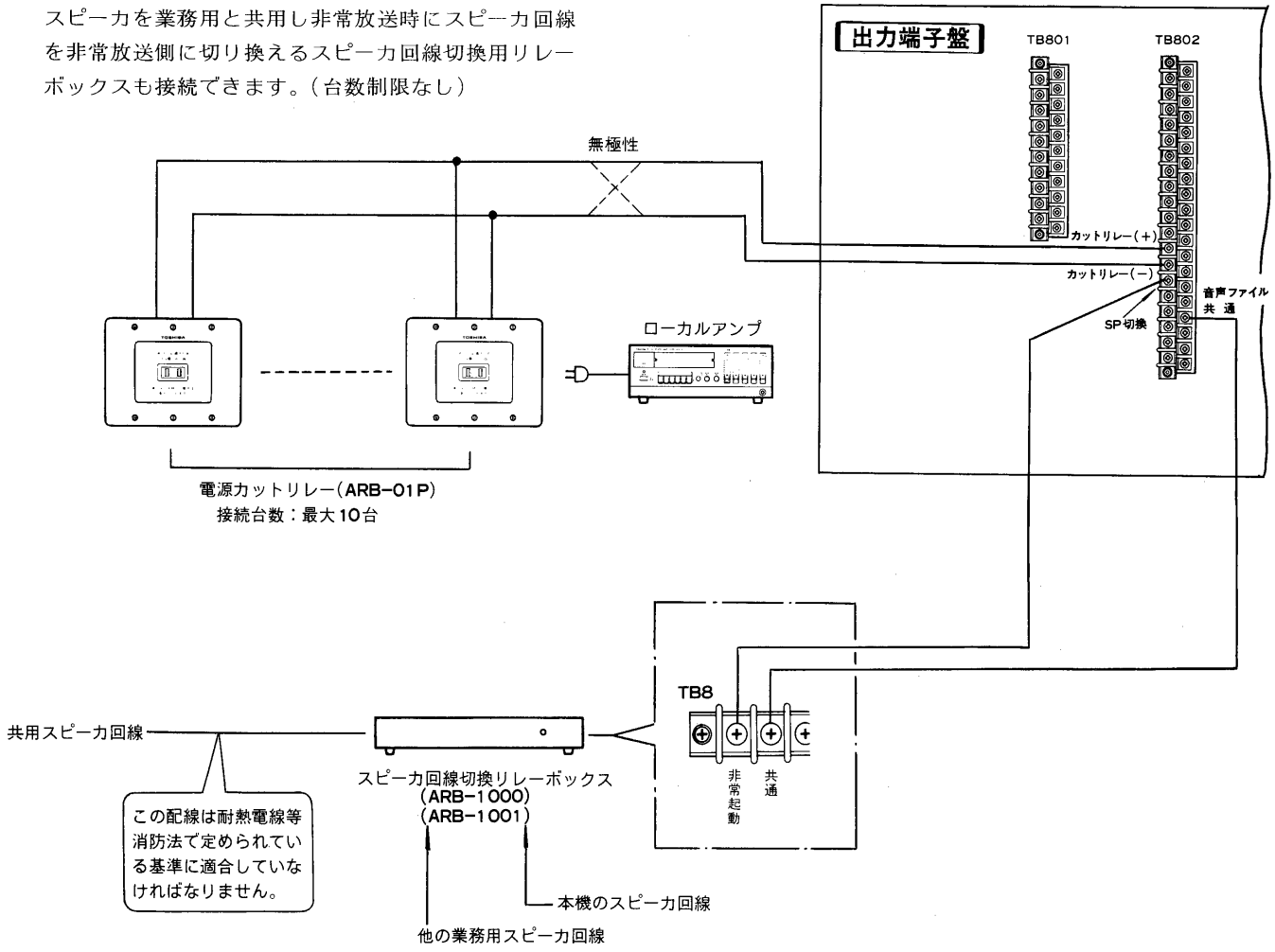
●非常・業務兼用リモコンを２台以上接続するときは、リモコンで渡り配線はせずに必ず本体ラックで分岐し、各リモコンへ配線するようにしてください。



●非常・業務兼用リモコンは最大４台まで接続できますが、回線数によっては本体制御電源パネル(APD-200)に増設電源の追加が必要となりますのでご注意ください。（16ページ参照）

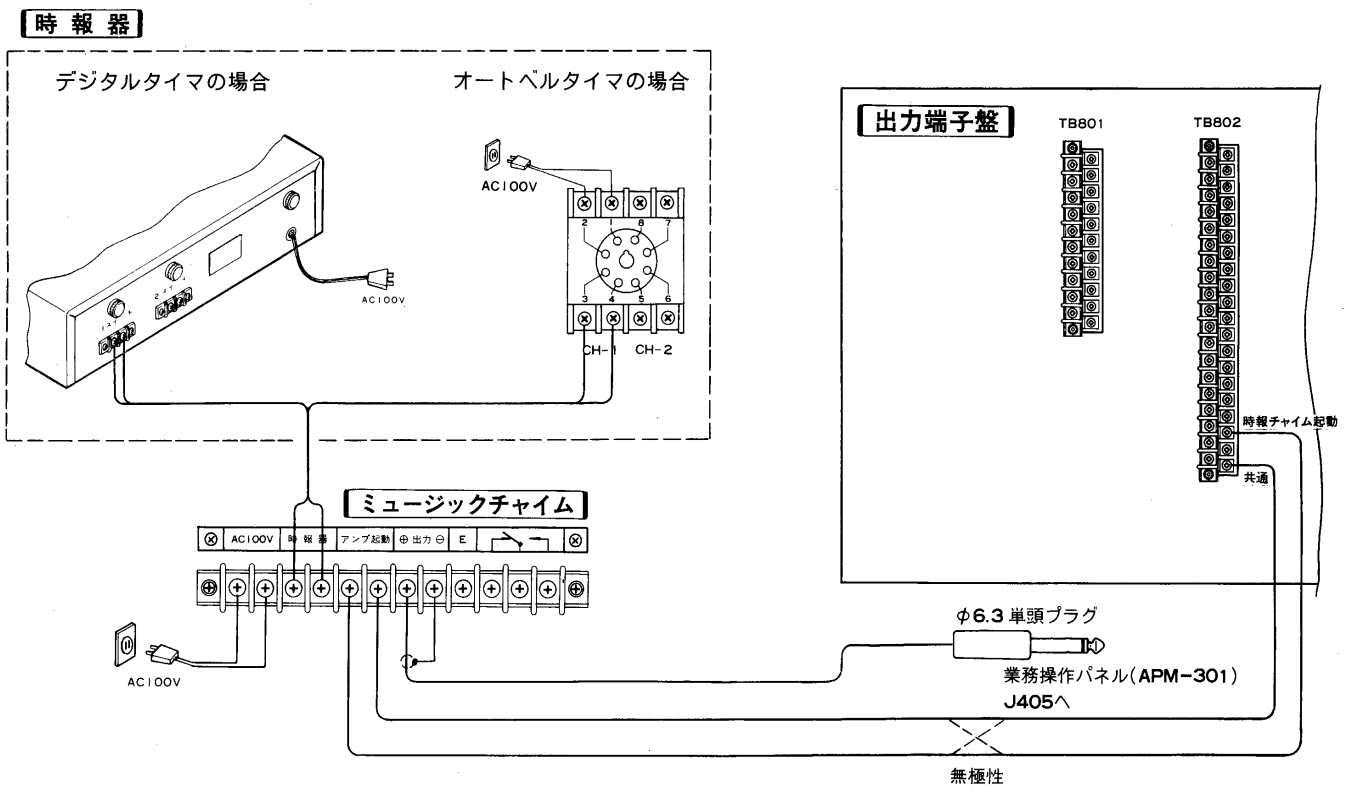
カットリレー、スピーカ回線切換用リレーボボックスの接続

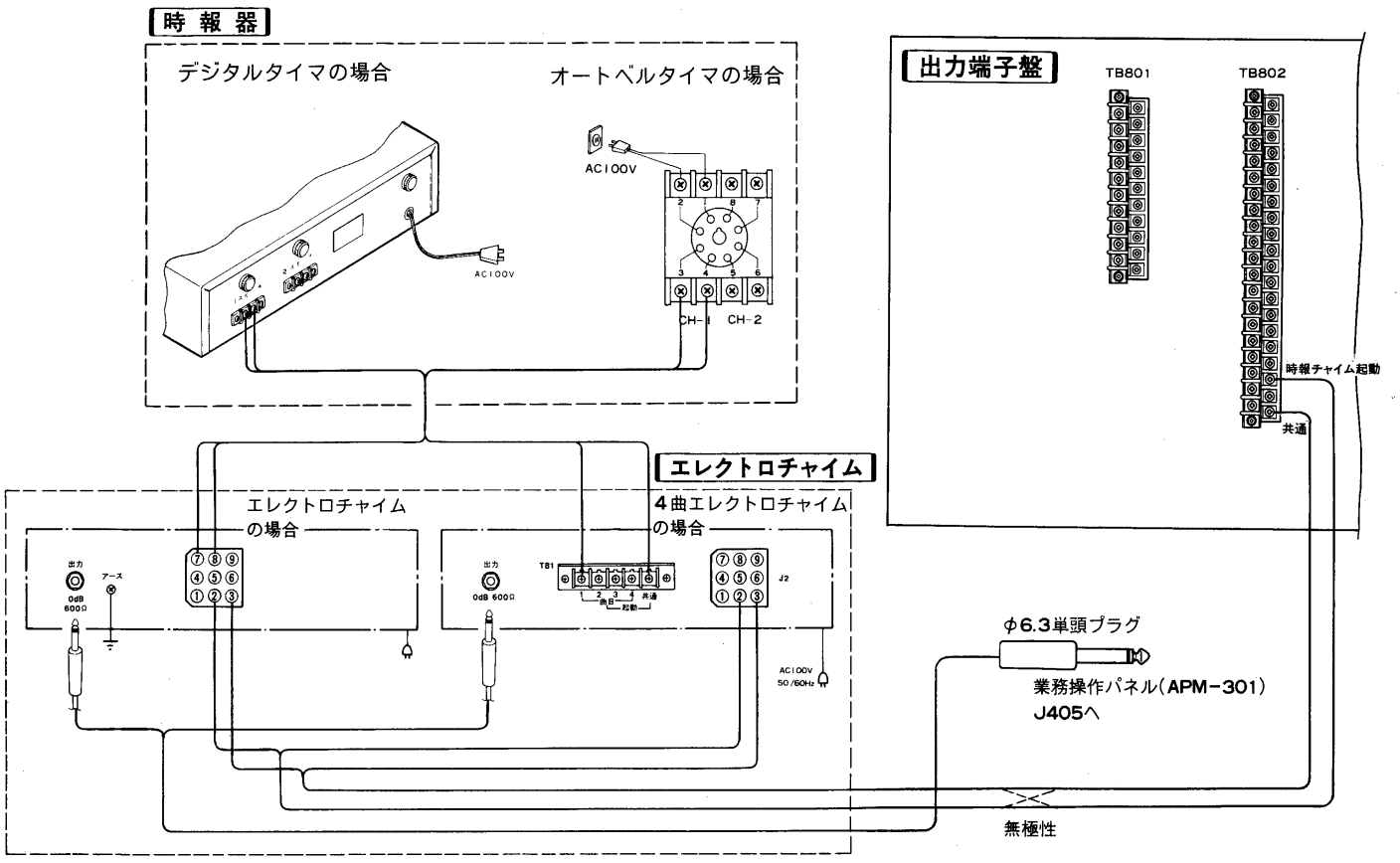
●非常放送時にローカルアンプの電源を断(カット)する電源カットリレーを最大10台まで接続できます。またスピーカを業務用と共用し非常放送時にスピーカ回線を非常放送側に切り換えるスピーカ回線切換用リレーボックスも接続できます。(台数制限なし)



時報チャイムの接続

●タイマーで定めた時刻に時報チャイムを自動的放送する場合は下図のように接続してください。
放送回線は任意に設定できます。（詳しくは〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

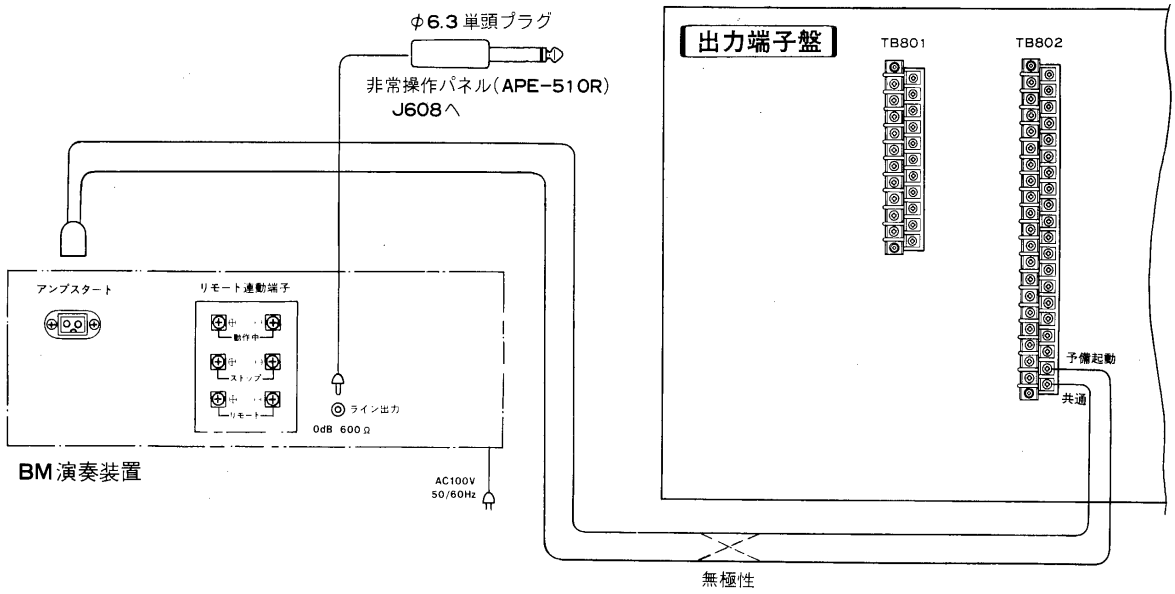




お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

BGM演奏装置の接続

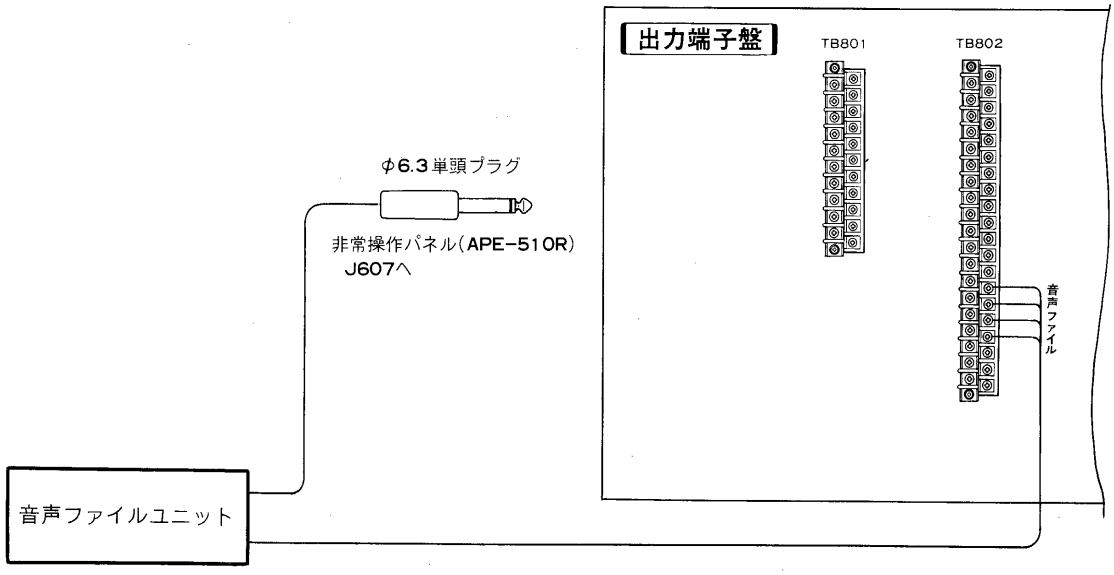
●BGMとして常時音楽等を流しておくような場合は予備入力を使用し下図のように接続してください。
本入力は最も優先順位は低く、本体あるいはリモコン等からマイク放送などの操作を行うと自動的にマイク放送に切りかわります。



●放送回線は任意に設定できます。（詳しくは〝書き込みのしかた〟をご参照ください。

音声ファイルユニットの接続

●自火報連動停止状態で自火報から発報時、出火確認のコメント等を自動的に出火階と直上階に放送する場合や、緊急時あらかじめ設定された回線に緊急コメントを放送する場合に音声ファイルユニットが使用できます。
●接続は音声ファイルユニットに付属の取扱説明書をご参照ください。

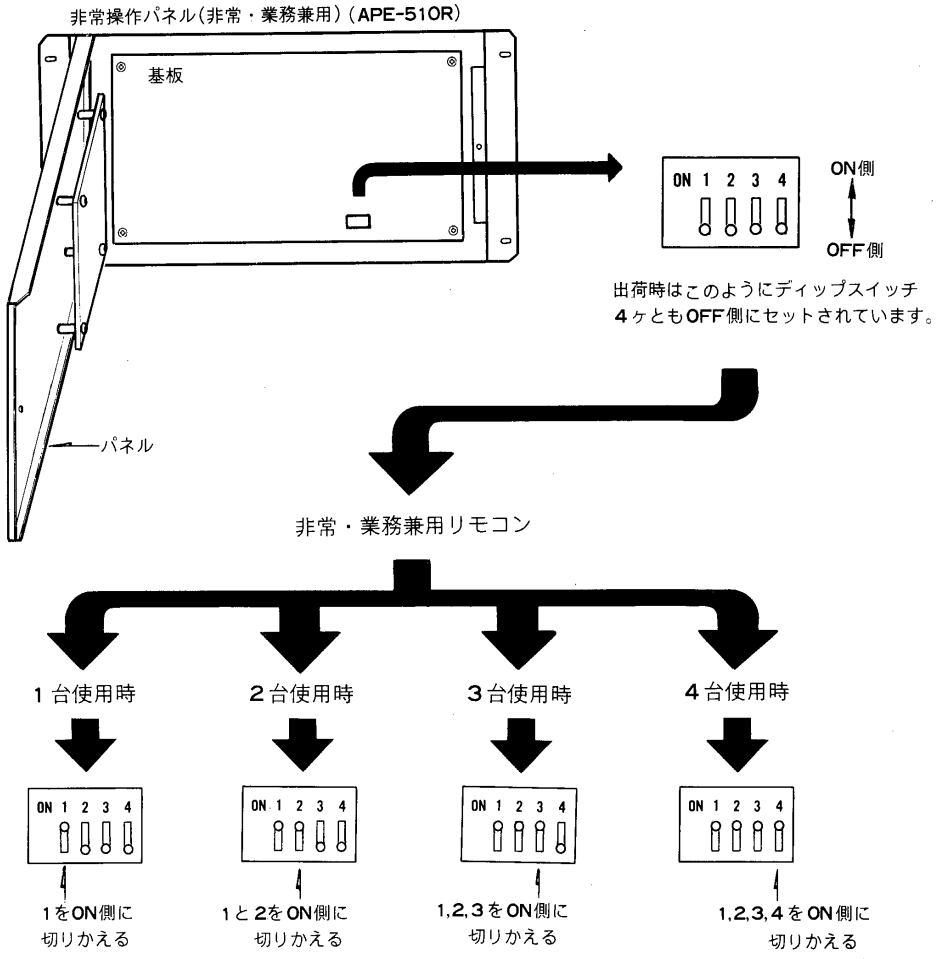


初 期 設 定

非常・業務兼用リモコンの初期設定

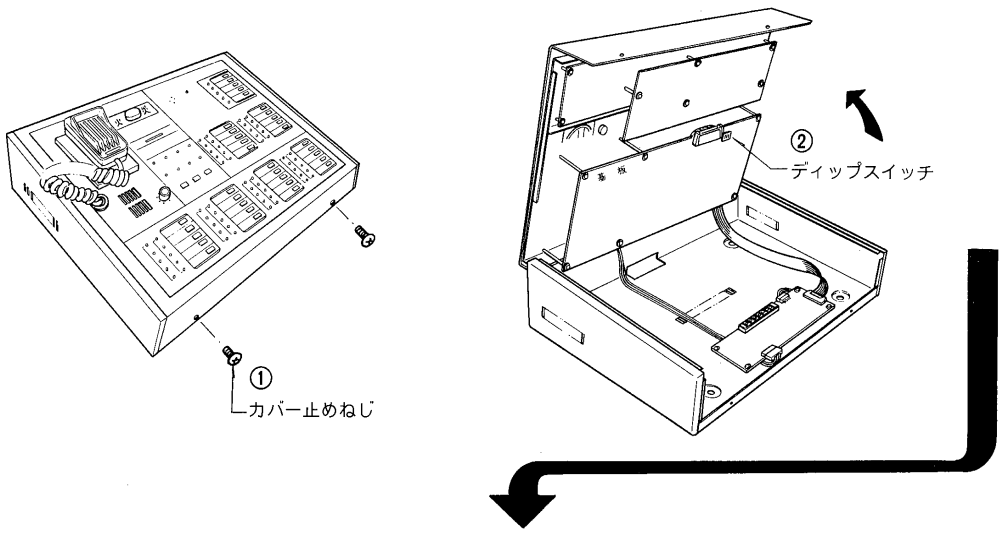
●非常・業務兼用リモコン(ARF-1001Rシリーズ)を接続して使用する場合はラック本体およびリモコン側で初期設定が必要です。次の手順で初期設定してください。

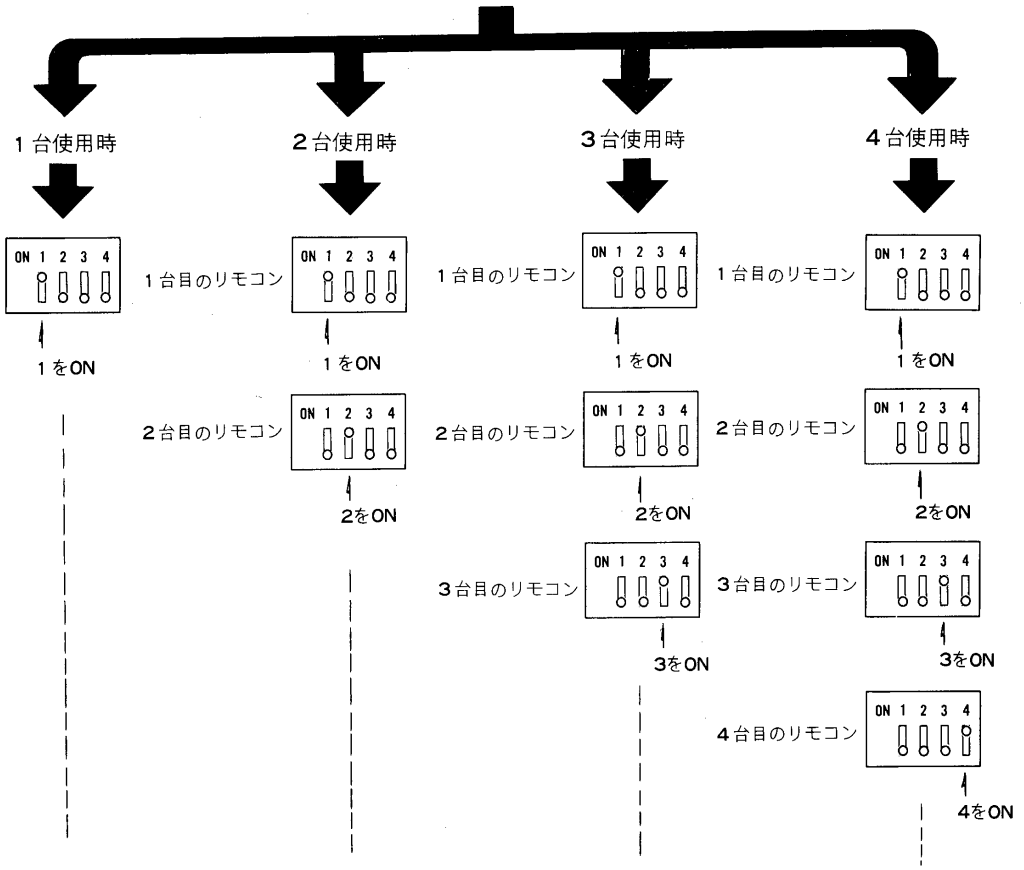
1 ラック本体の非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)内部のディップスイッチで使用するリモコンの台数を設定します。



2 非常・業務兼用リモコン(ARF-1001Rシリーズ)内部のディップスイッチでアドレスの設定をします。

①リモコンのカバー止めねじ(2ヶ)をはずしあけると、②カバー裏側の基板上にディップスイッチが取りつけてあります。





ご注意

- 2.3.4はONにしないでください。
- 3.4はONにしないでください
- 同じ数字をダブってONにしないでください。
- 4はONにしないでください。
- 同じ数字をダブってONにしないでください。
- 同じ数字をダブってONにしないでください。

取付、接続が完了したら

●取付、接続が完了したら次の手順で電源を投入し動作の確認をしてください。

①非常・業務兼用リモコンを使用する場合は、本体非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)内部および非常・業務兼用リモコン内部のディップスイッチにより初期設定を行ってください。(25ページ参照)

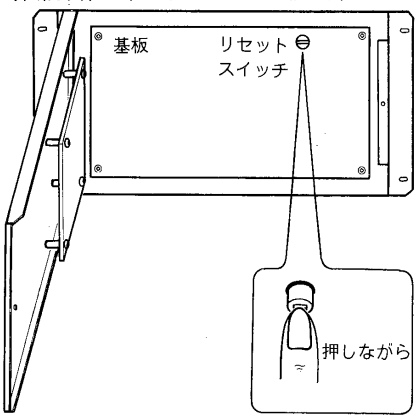
↓

②本機の出力端子盤(ATB-510R)に主電源AC100Vを供給してください。(17ページ参照)

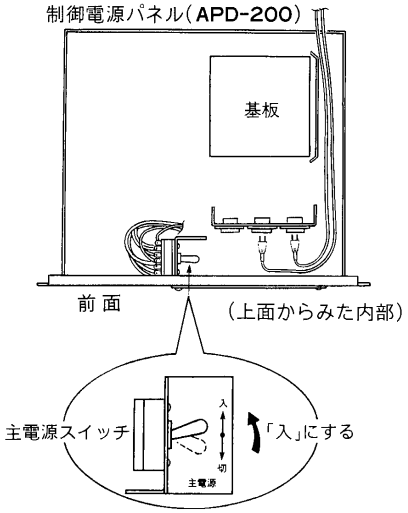
↓

③非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)内部のリセットスイッチを押しながら、制御電源パネル(APD-200)内部の主電源スイッチを「入」にしてください。
●リセットスイッチはしばらく(約5秒)押し続けてください。

非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)



制御電源パネル(APD-200)



●非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)の主電源表示灯⑫が点灯します。
●非常電源パネル(APDE-200)の充電中表示灯㉞が点灯し、主電源/非常電源電圧計㉜が主電源の電圧値を表示します。(主電源の電圧がAC100Vのとき−10%〜+10%のほぼ中央を指示します。)

●階別作動表示灯が数秒間点滅しますが異常ではありません。
●リモコン異常が点灯したら⑱㉜、リモコンの初期設定が間違っているかリモコンへの配線の異常が考えられます。再度チェックしてください。

↓

④取扱説明書〝非常放送のしかた〞(6ページ)〝業務放送のしかた〞(10ページ)に従って動作確認を行ってください。

非常放送および各種業務グループ放送は出荷時次のように初期設定されています。

①非常放送

●手動による非常放送は階別制御方式、自火報連動による非常放送は直上階方式でいずれも1回線を1階として制御します。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

②業務放送

- ブロック選択スイッチにはNo1回線より１回線ずつ割りあてられます。（１：１）
- 業務リモコン回線（１～最大40）にはNo1回線より１回線ずつ割りあてられます。（１：１）
- 時報チャイム制御は全回線一斉でアッテネータがOFFでも放送される緊急モードに設定されます。
- 予備入力制御は全回線一斉ですがアッテネータ調節のできる通常モードに設定されます。
- 音声ファイル制御は全回線一斉、緊急モードに設定されます。
- 優先は後取り優先に設定されます。

③非常リモコンからの制御は本体と同じです。（１：１）

⑤回線をいくつかまとめて非常回線に設定する場合、自火報連動時の制御を変更する場合、各種業務グループ放送の変更やブロックスイッチへの割りつけを行う場合、優先変更を行う場合などは別資料の〝書き込みのしかた〟に従って書き込み、設定を行ってください。

⑥書き込みが終ったらマイク扉内の書き込みスイッチ㉚を〝通常〟の位置にもどし設定、書き込みした内容に間違いなく設定されているか動作確認をしてください。

⑦非常・業務兼用リモコンをご使用の場合はリモコンからの動作確認を行ってください。
（非常・業務兼用リモコンの取扱説明書をご参照ください。）

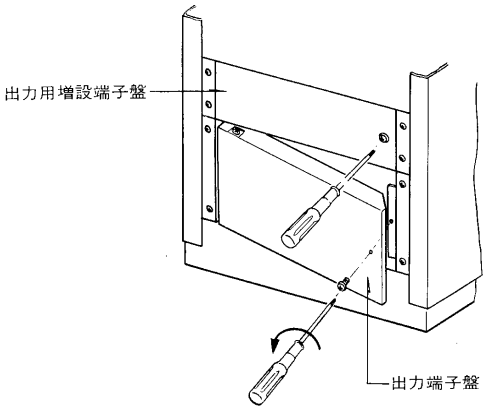
スピーカ回線保護ヒューズ溶断時の処置のしかた

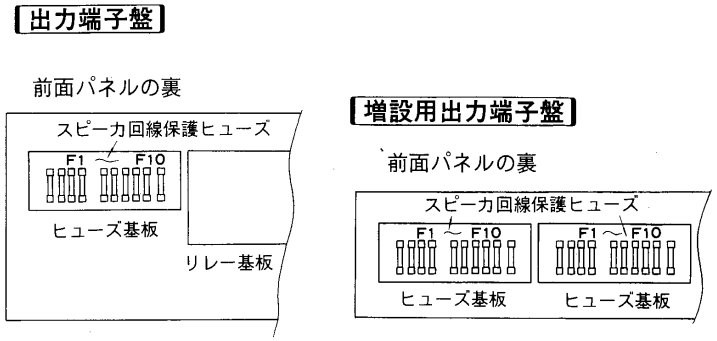
●スピーカ回線が短絡すると回線保護のために保護ヒューズが溶断します。
スピーカ回線保護ヒューズが溶断すると作動表示灯⑯が点滅します。この場合は次の手順にて処置してください。

①機器は放送復旧状態にしてください。

↓

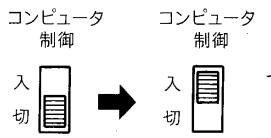
②作動表示灯⑯が点滅している回線の出力端子盤のパネル止めねじを図のようにドライバーではずしてパネルを左開きで開けてください。前面パネルの裏側の基板にスピーカ回線保護ヒューズが取りつけてあります。溶断したヒューズを新品と取りかえてください。

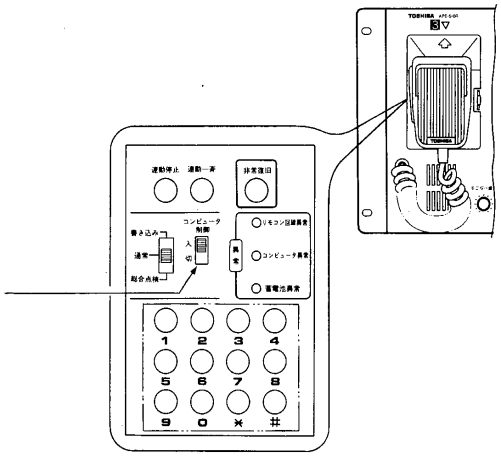




↓

③非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)のマイク扉②をあけ内部のコンピュータ制御スイッチ㉙をいったん「切」にしたあと再度「入」にしてください。





↓

④正常動作に復帰したことを機器を動作させて確認してください。

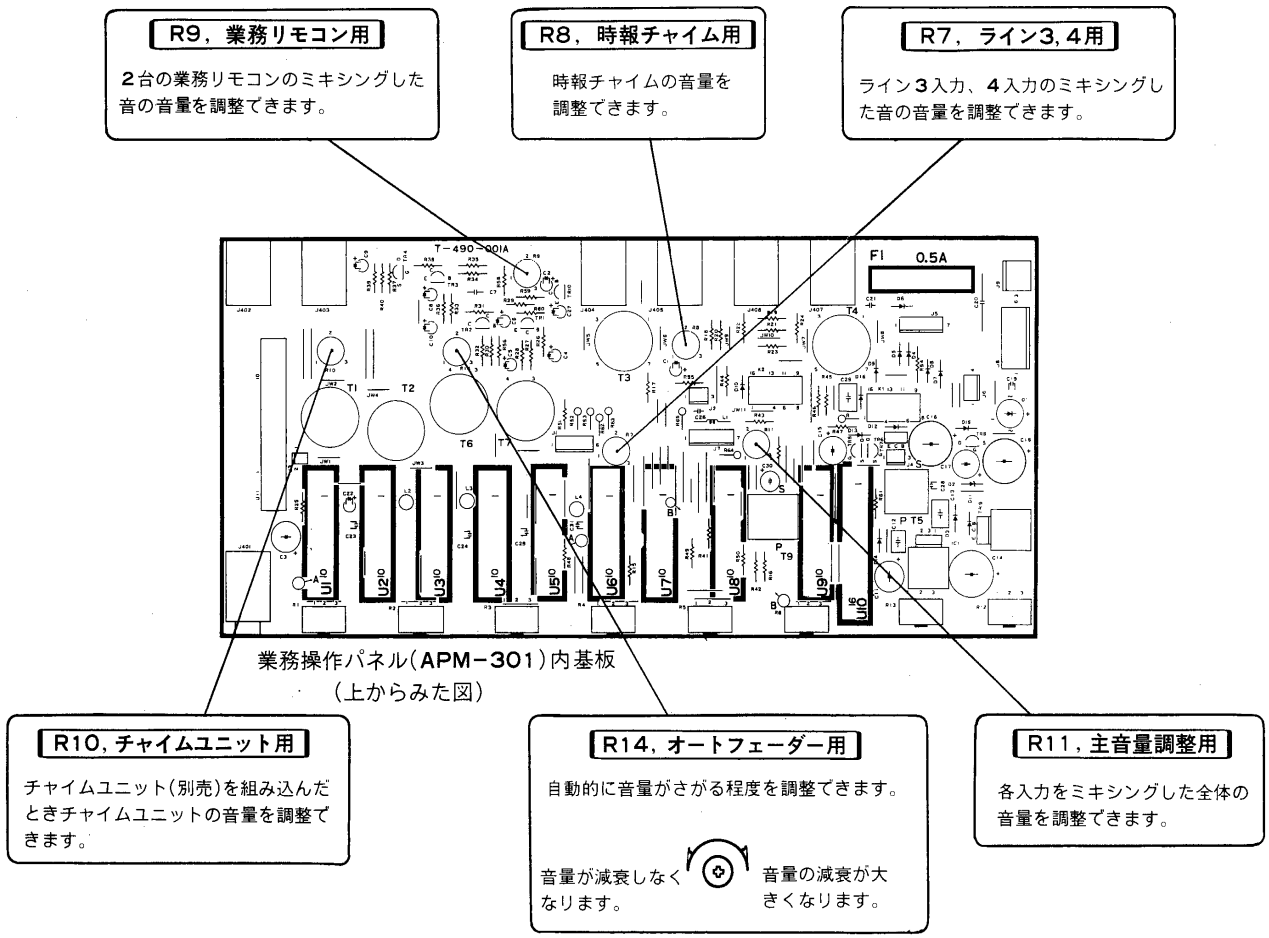
調整のしかた

業務放送の音量調整

●ライン3,4,時報チャイム、業務リモコンの各入力の音量および別売のチャイムユニットを組み込んだときの音量は内部の半固定ボリュームで調整できます。入力が大きすぎる場合はこの半固定ボリュームで調整してください。
また各入力を混合（ミキシング）した全体の音量も内部の半固定ボリュームで調整できます。前面のボリュームや内蔵半固定ボリュームで各入力の音量をバランスよく調整できないときにご使用ください。

オートフェーダーレベルの調整

●レコード、ライン２～４、組み込みユニットの音量はマイク１～３、チャイムユニット（別売）に信号が入ると自動的にさがり、信号がなくなると自動的に復帰するオートフェーダー機能を備えています。
●自動的に音量がさがる程度は内蔵の半固定ボリュームで調整できます。出荷時は最小（音量がさがらないように）設定してあります。オートフェーダー機能をご使用の場合、このボリュームで音量のさがり具合を調整、設定してください。



非常警報音、非常・業務兼用マイク、非常・業務兼用リモコンの音量の調整

●非常警報音、非常・業務兼用マイク、非常・業務兼用リモコンの音量は出荷時定格(AC100V)でるように調整されています。これらの音量を調整する場合(特に小さくて大きくする場合)は、いま一度下記の事項の点検を行ってください。

①スピーカが過負荷になっていませんか……スピーカのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。

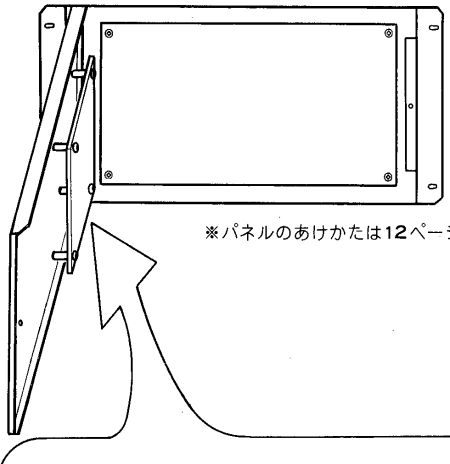
②スピーカのタップが正しく選定、接続されていますか……居室内は1W(10kΩ)、それ以外は3Ω(3.3kΩ)が非常放送用として必要です。

③スピーカアッテネータが正しく選定、接続されていますか……使用スピーカに適合したアッテネータが必要です。誤接続されると業務放送も影響をうけます。

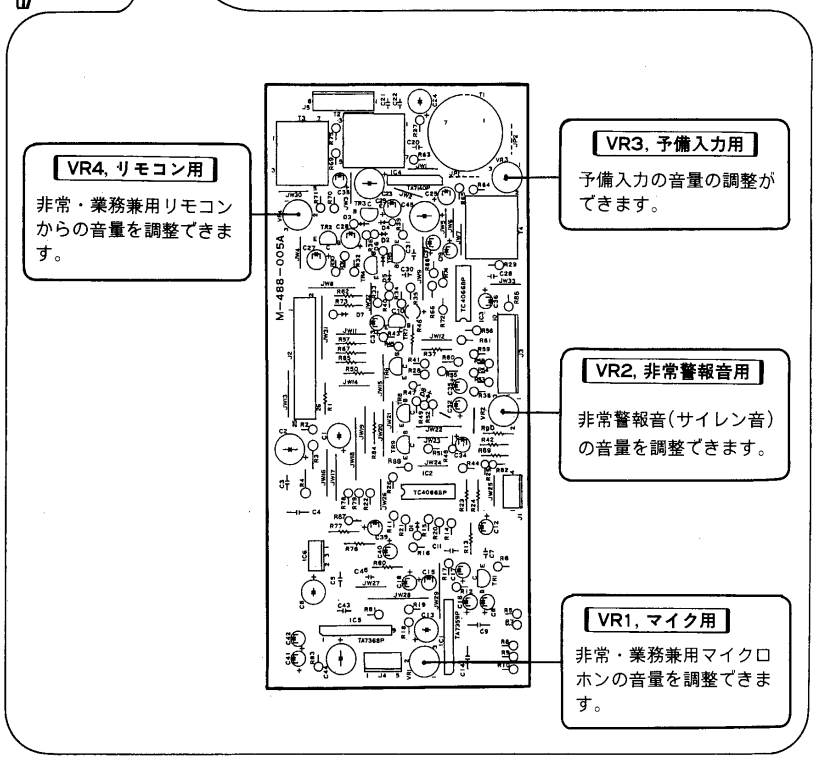
④アンプの出力が定格出ていますか……特に既設の電力増幅器を使うような場合、電力増幅器の入力感度調整が不適切ですと定格(AC100V)出ないことがあります。入力を大きくしすぎると他の正常な電力増幅器にとって過入力となります。

●非常警報音(サイレン音)、非常・業務兼用マイク、非常・業務兼用リモコンの音量は非常操作パネル(非常・業務兼用)内部の半固定ボリュームの調整ができます。

非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-510R)



※パネルのあけかたは12ページをご参照ください。



東芝ライテック株式会社 照明電材事業部 〒140 東京都品川区南品川2丁目2番13号(南品川JNビル) TEL (03) 5463-8779

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。 (11611)G